業務資料No.610

昭 和 55 年 度

散 在 移 住 者 実 態 調 査

(ベレン支部管内)

昭和56年 3 月

国 際 協 力 事 業 団

PARY

移 計 調
J R
81 － 5

国際協力事業団	
受入月日 '84. 8. 20	703
	23.4
登録No. 13117	EP

は　じ　め　に

本調査は，南米各地の散在移住者の実態を把握し，今後の援護施策に反映させる目的で昭和５１年度から実施しているものである。

本年度は，ベレーン支部が，管内５地区の調査を実施し，その結果をとりまとめた。アマゾン地域への日本人移住は，その開始から５０年を経，移住者がこの地域全体に広く浸透したと思われる。こうした移住者の実態を知ることは移住業務を担当するうえで必要なことであろう。

本報告書が業務資料として活用されれば幸いである。

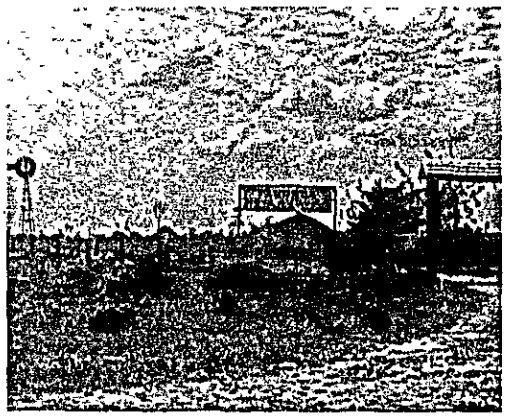
昭和５６年３月

移住計画調査部長

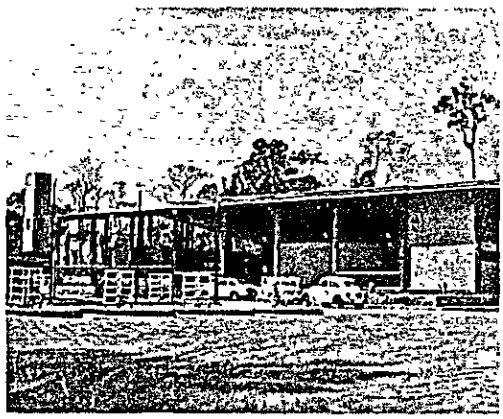
JICA LIBRARY
1024401[0]

オーロプレットの町を後方の国道

同沿線農家風景

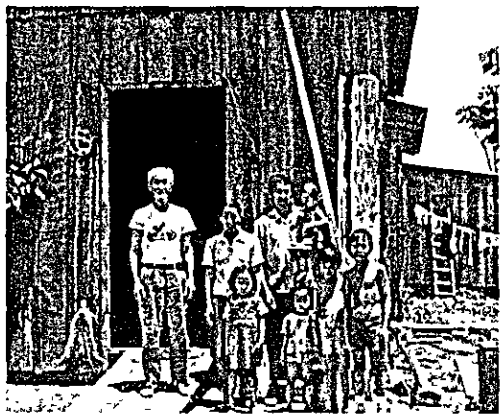


同沿線牧場風景

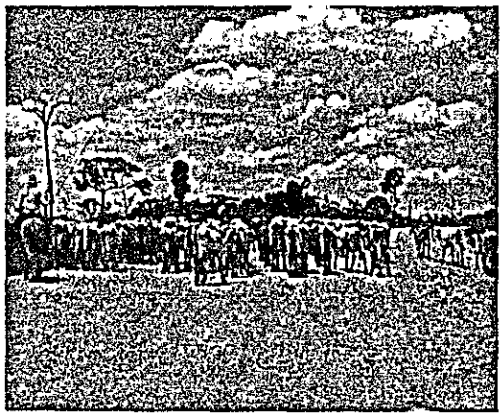


バスターミナル

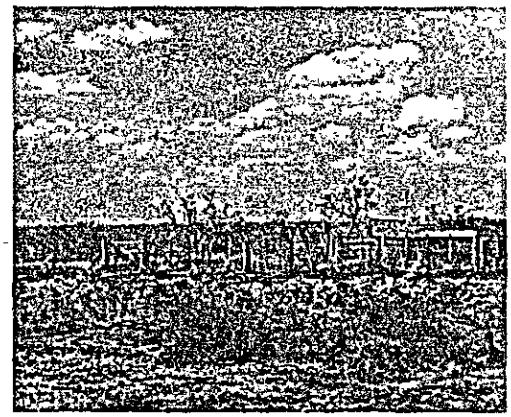
岡部氏農場全景



長谷川清治氏家族



国道を移動する牛



乾燥の強い牧場風景

目　　次

Ⅰ　調　査　概　要 …… 1

1　調　査　目　的 …… 1

2　調　査　方　法 …… 1

3　調　査　地　域 …… 1

4　調　査　項　目 …… 1

5　調査時期および調査員 …… 2

Ⅱ　調　査　結　果 …… 3

1　ロンドニア直轄州（ポルトベーリヨ地区を除く） …… 3

2　ア　ク　レ　州 …… 22

3　パラー州東部 …… 28

4　パラー州東南部 …… 41

5　マラニオン州西部 …… 52

Ⅲ　支　部　所　見 …… 62

I 調 査 概 要

1 調 査 目 的

アマゾン地域における移住者の移動は大別して２つの流れがある。１つは主としてロンドニア直轄領およびアクレ州等奥地アマゾン地域への南伯各州からの再移住であり，他の１つは東部アマゾン（パラー州およびマラニオン州）における胡椒病害を主因とする転住である。前者の場合は，マット・グロッソ州或はパラナ州境から北上の形をとった再移住のため，アマゾン地域在来の日系移住者との接触もほとんどなくその実態は全く不明であった。後者は殆んどの場合，耕地の拡大分散の形をとり，所々に耕地を構えたため，何処が本拠地であるのか，地域別居住者の把握があいまいとなり，各地区の自治体に依頼する居住者数調査でも一部重複のおそれがあった。加えて戦後移住者の大半が２０年以上の移住経過年数を経ており，家族の増大，耕地分散に伴う分家独立も派生し，その実態はいよいよ複雑となっている。今回は，これ等の実態を把握し，今後の移住業務に資するばかりでなく，アマゾンの日本人移住も５０年を経，ようやく迂余曲折を経ながらも全域に浸透した今日，その調査結果を時代の一区切りとし，後世の参考に供したい。

2 調 査 方 法

調査用紙による直接聞き聴り調査によった。

3 調 査 地 域

(1) ロンドニア直轄州（ポルトベーリヨ地区を除く）

(2) アクレ州

(3) パラー州東部

(4) パラー州東南部

(5) マラニオン州西部

4 調 査 項 目

(1) 地域の概況

(2) 地域の日系移住者入植の経緯

(3) 日系人在住家族数

(4) 家族状況　(ア) 年令構成　(イ) 性別

(5) 混合婚の状況

(6) 国籍所有の状況

(7) 家長の在伯年数

(8) 家長の出身地方

(9) 家長の学歴

(10) 家族の学歴

(11) 子弟の就学状況

(12) 家長の職業

(13) 農業経営作目

(14) 農業経営の規模

(15) そ の 他

5 調査時期および調査員

	地区名	調査員氏名	調査時期
1	ロンドニア直轄州	山中正二 小野亜保	昭和55年 9月
2	アクレ州	為沢義美	昭和55年11月
3	パラー州東部	林丈一	同上
4	パラー州東南部	林丈一	同上
5	マラニオン州西部	林丈一 長浜雅博	昭和55年12月

Ⅱ 調 査 結 果

1 ロンドニア直轄州（ポルト・ベーリヨ地区を除く）

(1) 地域の状況

ア 自然的条件

(ア) 位　　置

南緯5°11′19″Sから13°45′09″S。西径34°45′54″Wから73°59′32″Wに位置し，ボリビア国境に接し，アマゾナス州とマットグロッソ州（北）とに挟まれた連邦直轄の州である。面積は243,044㎢でサンパウロ州よりわずかに小さい。ブラジルの総面積の約0.03％を占める。

(イ) 気　　候

直轄州内を大別すると，北部ポルトベーリヨ平坦地域と南部高原台マットグロッソ寄りのビレナ地域とに二分される。前者地域は，アマゾン熱帯湿潤内陸性気候で，（KÖPPEN Am型） 8月～11月までは高温が続き，乾燥期となっている。また，12月から7月にかけて比較的低温となり雨期となっている。後者地域は乾燥が厳しく，KÖPPEN Af・Aw型気候で，熱帯内陸性乾燥気候である。

例年，8月9月頃になると，一時的に寒冷前線が北上し，気温が10℃以下になることが1～2回ある。この地方では，この現象を"フリアージェン"と呼んでいる。但し，南伯地方のように霜が降るようなことはなく，農作物に対する被害は少ない。

年間における最高気温は39℃，最低気温は10℃，年間の平均気温は25.7℃，年間降雨量2,195㎜，相対湿度71％～78％となっている。

イ 土壌及び地形

同直轄州の約¾の地域は，プレカンブリア期及びクレセタセオ期の土壌から形成されている。又，マディラ河，ガポレー河の両沿岸はオロセノ期土壌で，中央部から南部にかけてはメゾリコ及びインジビソ期の土壌である。

ポルトベーリヨからアリケメス中間位までは一般にみられる黄色土壌が分布し，アリケメスからオーロプレットまでは肥沃土壌とみられる赤色土

表1　ポルトベーリヨに於ける気象観測値
11年間（1966年～1976年）の測定平均値

	最高気温	最低気温	平均気温	相対湿度	降雨量	日射量	蒸発量
	℃	℃	℃	%	粍	ルクス	粍
1月	31.8	21.5	25.5	90	330.9	107.4	48.8
2月	31.9	21.4	25.8	90	313.9	94.7	38.0
3月	32.1	21.0	25.6	90	267.4	128.2	45.4
4月	31.8	21.8	25.8	89	282.3	137.4	42.6
5月	31.9	21.0	25.4	87	113.9	173.4	52.6
6月	32.1	19.9	25.0	85	38.6	217.0	65.9
7月	32.6	18.4	24.7	81	35.1	249.6	77.3
8月	34.4	19.7	25.9	79	49.6	237.1	87.8
9月	33.8	20.7	26.0	83	135.5	172.6	75.9
10月	33.4	21.5	26.1	84	193.4	184.4	70.5
11月	33.1	21.8	26.2	88	288.7	140.3	54.4
12月	32.1	21.6	25.7	89	290.7	128.3	49.1
年間平均	32.5	20.9	25.6	86	195.0	164.2	59.0

表2　オーロプレットに於ける気象観測値

（月）	1974		1975		1976		1977		平均	
	平均気温	降雨量	平均気温	降雨量	平均気温	降雨量	平均気温	降雨量	平均気温	降雨量
1	25.5	305.9	25.5	233.5	25.1	243.9	25.8	243.5	25.5	256.7
2	25.0	296.8	25.3	203.9	25.1	320.6	25.5	255.5	25.2	294.2
3	25.0	170.5	25.5	499.6	25.2	244.1	25.8	149.7	25.4	266.0
4	24.6	174.7	25.9	273.2	25.2	191.8	25.5	94.9	25.3	183.6
5	24.7	114.8	24.7	85.7	24.9	125.4	24.1	120.1	24.6	111.5
6	25.0	22.1	24.3	00	22.5	3.4	24.2	112.1	24.0	34.4
7	24.5	00	22.9	19.2	23.5	0.8	24.8	0.7	23.9	5.2
8	25.6	70.1	25.6	3.6	25.5	10.8	25.4	103.7	25.8	108.6
9	25.6	31.2	26.7	117.1	25.6	142.7	25.3	143.6	25.8	108.6
10	26.1	84.9	26.2	244.9	26.1	198.9	25.7	248.3	26.1	194.2
11	26.2	132.9	26.0	166.1	26.0	226.1	26.2	324.4	26.1	212.4
12	25.2	258.6	25.3	210.9	25.8	199.3	25.9	236.7	25.5	226.4
平均	25.3	—	25.3	—	25.0	—	25.3	—	25.2	—
計	—	1,662.5	—	2,157.7	—	1,907.8	—	2,050.9	—	1,944.7

壌，テーラロッシャが分布している。これを過ぎ，ジャルーからピメンタブエノ間は黄色土壌で砂質が強くなっている。また，ピメンタブエノから，ビレーナまでは非常に砂質が強く農牧畜には不適地帯である。この地帯は砂漠と言っても過言でないと思う。いわゆるアマゾンの森林を無制限に伐採すれば砂漠化する地帯は此の地方であろう。

地形は，ポルトベーリヨからビレナに向って徐々に高度を増し，大体各集落間一つごとに１００m前後高くなっていると言って良い。ビレナでは台地形となり，海抜約６００mで比較的冷涼気候となっている。

表１　オーロプレット土壌分析結果

Amostra de lab. no	Horizonte Amostra seca ao ar (%)						Densid. real	Equiv. de umid.
	Simbolo	Profundidade	Calhaus 20 mm	Cascalho 20-2 mm	Terra fina	PH (agua)		
1865	A_1	0— 7	—	0	100	6.3	—	22.24
1866	A_3	7— 17	—	0	100	6.3	—	22.04
1867	B_1	17— 30	—	0	100	6.4	—	22.11
1868	B_{21}	30— 61	—	0	100	6.0	—	20.52
1869	B_{22}	61— 88	—	4	96	6.2	—	21.50
1870	B_{23}	88—120	—	6	94	6.0	—	21.50
1871	B_3	120—140	—	4	96	5.8	—	20.49

Complexo Sortivo (mEq/100g)									100 A
Ca^{++}	Mg^{++}	K^{+}	Ma^{+}	S	Al^{+++}	H^{+}	T	V%	Al^{+}
1.8	2.3	0.38	0.02	4.50	0.0	2.67	7.17	62.70	0.0
0.5	2.3	0.11	0.01	2.92	0.0	2.33	5.25	55.6	0.0
0.9	1.6	0.09	0.02	2.61	0.0	2.00	4.61	56.6	0.0
0.1	1.9	0.06	0.02	2.08	0.0	1.66	3.74	55.6	0.0
0.5	0.7	0.08	0.02	1.30	0.0	2.00	3.30	39.4	0.0
0.0	1.7	0.05	0.02	1.77	0.0	1.66	3.43	51.6	0.0
0 0	1.3	0.04	0.02	1.36	0.0	0.99	2.35	57.8	0.0

			Composição granulométrica (Dispersao com NaOH 1,5N)					
C%	N%	C/N	Areia grossa	Areia fina	Silte	Argila	Argila natural	Grau de fleculaçã
1.26	—	—	29.1	20.3	34.4	16.2	10.1	37
0.73	—	—	23.6	20.7	36.5	19.2	6.1	68
0.61	—	—	26.4	19.9	32.4	21.3	0.0	100
0.43	—	—	27.3	20.3	32.2	20.2	0.0	100
0.30	—	—	24.4	22.4	31.0	22.2	0.0	100
0.26	—	—	27.1	19.6	33.1	20.2	0.0	100
0.17	—	—	28.5	22.5	32.9	16.1	0.0	100

表2　ポルトベーリヨ市近くの土壌分析結果

Prot.	Horiz.	pH H20	ME/100g de T. F. S. A.									V %	P2O5 mg/100 gr	pH KCl
			Ca^{++}	Mg^{++}	K^{+}	Na^{+}	Mn^{++}	H^{+}	Al^{+++}	T	S			
3000	Ap	4.3	0.45	0.15	0.15	0.11	0.02	4.69	5.87	11.42	0.46	7	0.55	4.00
3001	A2	4.7	0.20	0.05	0.15	0.08	0.02	3.30	5.65	9.43	0.48	5	0.55	4.00
3002	B1	4.5	0.30	0.15	0.15	0.23	0.02	3.33	5.44	9.60	0.63	9	0.55	4.00
3003	B2	4.5	0.30	0.15	0.11	0.20	0.02	2.41	5.65	8.82	0.86	9	traços	4.00
3004	B31 pl	4.8	0.30	0.10	0.12	0.20	—	2.46	6.85	10.03	0.02	7	〃	4.00
3005	B32 pl	5.0	0.30	0.15	0.11	0.22	—	1.84	7.83	10.45	0.58	7	〃	4.00

Prot.	g/100g de T. F. S. A.						C/N	Ki	Kr
	C	N	MO	Si O2	Fe2 O3	Al2 O3			
3000	1.27	0.13	2.18	16.00	4.19	11.73	10	2.31	1.89
3001	0.68	0.09	1.16	18.20	4.19	13.26	8	2.33	1.94
3002	0.57	0.07	0.98	17.00	4.39	13.77	8	2.10	1.75
3003	0.41	0.06	0.69	19.20	4.58	14.02	7	2.33	1.93
3004	0.34	0.06	0.59	23.20	7.58	16.06	6	2.46	1.89
3005	0.14	0.05	0.30	26.40	9.98	18.87	3	2.37	1.78

ウ　植　　生

同直轄州の中央以北部は喬木森林で覆われ，又以南部は灌木林か草原に覆われている。特に南部はパラナ，マットグロッソ州からの転住者により，大規模な牧場化が進んでおり，自然植生が破壊されている。

ビレナ高原地帯は灌木林か草原で，砂の多い土壌であることから，エコロジー，砂漠化問題が強く言われる地域であろう。

森林地帯からはモグノ，セドロ等の有用材が沢山伐採・製材され，南伯から海外へ輸出されている。

現在この地域は，南伯への木材供給地となってトラックによる輸送が盛んに行なわれている。

エ　人　　口

ロンドニア直轄州の総人口は１９８０年度１０月におけるＩＢＧＥの調査によると，503,059人となっている。このうち，首都ポルト・ベーリヨの人口は約138,289人，他の地域に364,770人が分布している。

近年4～5年の間にINCRAの植民地計画に伴う入植者が急速に増加し，全州の中で最高の人口増加率15.8％を示している。

このように最近急テンポで開発が進行していることから，近々州に昇格する計画がある模様である。

アリケヌスのINCRA事業所の説明によると，同直轄州の北西一部分を除いては，ほとんどが植民耕地割分譲が終っており，既に満植状態となっているとのことである。

オ　交　　通

(ア)　鉄　　道

ブラジルの歴史の中でも最も有名である同直轄州の鉄道は，18世紀後半にゴムの生産が増加するにつれて鉄道輸送が考えられ，1871年英国系鉄道会社が設立され，翌年米国系会社に移管され，サントアントニオから，グァジャラミリン間の369㎞の工事を開始したが，失敗に終った。最後にブラジル政府が1905年から1912年に亘り，ポルトベーリヨからグァジャラミリン間延長，400㎞を莫大な政府予算と人的犠牲により本工事の完成をみた。

この鉄道により，ボリビアからの物資もこの鉄道により，大西洋に運ばれるものと予想されていたが，1915年にパナマ運河が開通し，予想に反しボリビアの物資は直接太平洋から輸送される等，この鉄道沿線は一向に発展しなかった。

1960年代に入り，鉄道は自動車の発達により衰退し，この鉄道も一時期廃止されたが，石油ショック以来再び復活の再考を論議されている。最近に至って1979年頃から観光用として一部区間の復活を図るべく修復工事を細々と進めている。

(イ)　船　　舶

同直轄州の北西部を流れるマディラ河が従来唯一の交通路であったが，この河を航行する船舶は陸路・航空路の発達により衰退して来ているが，ベレン，マナウス方向からの物資はこの河川を多く利用している。

(ウ)　道　　路

BR364国道（旧BR29国道）はマットグロッソ州，リオブランコ

州，アマゾナス州とを連絡する動脈的道路であり，１９６１年にBR010号国道（ベレン〜ブラジリア間）と一緒に開通したが，その後の整備工事が遅れ，部分的に通行が困難な個所が現れている。ポルトベーリヨとアリケメス区間はほぼ完全舗装工事を完了しつつあるが，しかし，ピメンタ・ブエノ（Pimenta Bueno）とビレネ（Vilhena）間は砂質土壌で，砂漠的道路と言った状況にある。本調査時期では車両が乾燥のため通行困難となっていた。

南伯からの物資はほとんどこの道路により輸送されているため，特に大型トラックの通行が多くなっている。

最近のブラジル政府の計画では，１９８１年度中には全線の舗装工事を完了する予定である。

(エ) 航空路

首都ポルト・ベーリヨ市には大型飛行場と小型飛行場があり，ローカル大型機が毎日就行している。小型・中型機によりその他の地域州内都市間を結んで就行しているため，交通は比較的便利になって来ている。

カ 主なる産業開発計画

基本的には１９７０年度より，連邦政府により，ブラジル内国総合開発計画，P.I.N.(Programa de Integracão nacional)から成立っているが，その中の一部アマゾン関係の開発計画の大項目として，

(1) 農地再分配計画＝PROTERRA(Programa de Redistribuigão de terra.)

(2) アマゾン地域投融資基金＝FINAM(Fundo de Inoestimento da Amazonia)

(3) 植物ゴム生産計画＝PROBOR(Programa de Incotivo a Produgão)

(4) アマゾン地域鉱物及び農畜産極地計画＝POLAMAZONIA(Programa de Polos Agropecuarias e Agrominerais da Amazonia)

等，この地域の開発が計画・実施されている。

(ア) 農業開発計画

A 植民地計画

ロンドニア直轄州で約７００千*ha*が農業用地計画として推定され，全体で１００千*ha*の計画を実施中である。１９７０年にポルト・ベーリヨからBR３６４国道南方向へ約３１３km地点のオーロプレット(Ouro Preto)を中心としたオーロプレット全体植民地計画が設定され，これにアリケメス(Aliquemes)，ジーパラナ(Ji-Parana)の２大農業地帯も含まれている。

この植民地計画はINCRA(連邦移植民農地改革院)が次の計画を実施している。

ブラレイロ計画　耕地面積　125～250*ha*(無所有農への長期分割分譲)

リスタソン計画　耕地面積　500 *ha*(主に企業への競売が目的)

ロンドニア直轄州の植民地計画主旨は，以前は米，フエジョン等を州外より移入，又肉はボリビア国より輸入していたので，これを地域開発により自給を図ろうとしている。

従って農業生産及び住民の定着化が主眼となっている。

次の年度別・地域別入植戸数からも分るとおり，最近急速に入植が進んでおり，又前述のとおり入植者は主に南伯からの内国移民である。

	1977/78	1978/79	1979/80	1980/1981(計画)	計
アリケメス	67	192	149	187	596
ジャルー	143	60	13	124	552
オーロプレット	47	57	9	80	512
カコアール	106	33	1	63	324
計	363	342	172	454	1,984

（注） 上記の数字は農家戸数，INCRA資料による。

B　カカオ栽培計画

この実施機関は，カカオ栽培計画実施院　CPLAC（Comisson Executiva de Plano da lavoura Cacaueira）により，前述のPOLO計画としてアマゾン流域支部（在ベレン市）の所轄にあり，1971年より実施されている。

ロンドニア直轄州に於ける1976年～1985年度までの栽培計画は次のとおりである。

1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	計
1,200 *ha*	1,200	1,200	2,400	2,400	3,600	3,600	4,800	4,800	4,800	30,000 *ha*

又，過年度に於ける既生産量は次のとおり。

1976	1977	1978	1979
9,000 *kg*	37,000	109,000	735,000

C　植生ゴム生産計画

ゴム管理庁（SUDEHEVEA）で企画実施している。

D　農業・牧畜計画

主たる農産物は米，ミーリヨ，マンジョカ，ジュート，マルバ，フェジョン豆等，又牧畜関係は畜牛である。

E　農村開発計画

農村金融援護協会（ACAR）により農村の社会，経済開発を実施している。

F　農畜産試験計画

伯国農畜産調査試験公社（EMBRAPA）により調査試験を実施している。ポルト・ベーリヨ近郊とオーロプレットの2ケ所で分場を設置している。

G　動物衛生計画

口蹄疾病，狂犬病等の病気発生防止を目的とする。

H　農業協同組合結成促進計画

INCRA，ACARにより指導する。

I　その他の計画

ポルト・ベーリヨ（Porto Velha）市に新港を建設する。

キ　地区別概況

(ア)　アリケメス（ARIQUEMES）

調査戸数は37戸であるが，この他に調査出来なかった戸数が5～6戸ある。また，戸主が伯人（日系女性と伯人男性と結婚している者）である者が，3戸居住している。これ等を総計すると，45戸前後の日系人が居住している。

当地は，BR364号沿線の中で最も新興地で市街地計画により，当地へ定住しようとする者には郡役所に申請すれば，1戸1耕地を無償譲渡している。

住宅地15m×30m，商業街地100m×100mが一応の基準となっており，場所によっては多少の違いがある。また，83年までには仮地権を発給する予定である。

INCRAから土地の譲渡を受ける場合でも，現地へ居住していることが一つの絶対条件となっていることもあり，また，土壌的にも肥沃土地帯と云うことから，アリケメスの人口が急速に伸びている原因でもある。

日系人のほとんどが農業者であるが，このような条件から，アリケメスの町へ住宅地を持って，家族は町に居住させ，農耕地は比較的遠隔地（約20～50㎞）にあるため，通勤営農を行っている現状である。特に日系人耕地だけが集団地とはなっていない。

町の人口は推定約30,000人と言われているが，郡役所でも確定数は把握していない。公共施設は，学校4（含む農学校1），病院5，診療所2，支線道路延2,500㎞，農業協同組合3，体育クラブ及び文化ク

アリケメス日伯体育文化協会会員氏名

No.	氏名	年令	出身県	No.	氏名	年令	出身県
1	青山正次郎	52	秋田	22	金沢稔	38	二世
2	中村修	36	大阪	23	後藤満	43	〃
3	中村亨	26	〃	24	上田和弘	29	〃
4	平間益蔵	29	二世	25	松本登	63	
5	落合英光	29	〃	26	落合信行	26	二世
6	石川浩通	48	〃	27	高沢源左エ門	58	福岡
7	飯田茂雄	52	〃	28	平間春雄	23	二世
8	飯田ジェルソン	23	三世	29	青山実	60	秋田
9	高沢ラウリンド	32		30	佐々木アウゴスト	34	二世
10	落合光顕	33	二世	31	小沢久夫	34	〃
11	斉藤勝	33	〃	32	内田義文		福岡
12	吉森正治	64	岐阜	33	アントニオ・ミランダ	28	伯人
13	平間雅雄	37	二世	34	落合光行	31	二世
14	鈴木巌雄		〃	35	石谷健一	46	〃
15	鈴木与一	70	和歌山	36	鮫島パウニル	37	〃
16	平間清治	34	二世	37	嬉野ルイス		
17	神谷正己	42	静岡	38	高橋利春	37	二世
18	久保谷義人	70	広島	39	長広正幸	40	〃
19	数本敏雄	42	二世	40	森本次郎		
20	山岸柳一郎	81	岐阜	41	ジュリオ・バレンサ		伯人
21	恵古パウロ	30	二世	42	レオニルド・ヒゴニ	36	〃

ラブ5，銀行3（ブラジル銀行，アマゾニア銀行，BAMERINDO銀行，その他2行が計画中），電話局1（近日中に直通話方式採用予定），発電所（火力，2,000 CV，ロンドニア州公社経営），テレビ局1（Canal 7），CIBRAZEM（農務省直営農産物販購貯蔵庫），スーパーマーケット2等があって，都市形成しつつある町である。

前述のとおり，日系人はアリケメス日伯体育文化協会（会員42名）を組織し，活動している。また，この他に農業協同組合には日系15戸が加入，理事長は日系人の二世（平間雅雄氏）で，この組合は組合員508名で主に農産物の販売事業を主体としている。

（Cooperativa Agropecuaria mista de ARIQUEMES）＝アリケメス農畜産業組合

(イ) ジャルー（JARÚ）

人口約1万人足らずの小さな町であり，調査戸数3戸，15人で，この他1名は日系人との交際面会は好まないと云う事から，調査出来なかった。従って，同地には4家族が居住している。

(ウ) オーロ・プレット（OURO PRETO）

人口1万人内外の集落地であり，地形の変化が激しく，花崗岩が露出している山々が連なっている間の傾斜地に新しい住宅が建ちはじめている。土壌はテーラロッシャ（Terra Roxa）紫土壌の肥沃土地帯である。また，農業開発計画の本拠地でもある。

主な組織機関はINCRA（伯国植民農地改革院）事業所，CEPLAC（カカオ栽培計画実施院），試験場分場及び事業所，州農務局出張所等があり，官庁事業所により形成された町である。

ここでの調査戸数は3戸，9名であるが，未調査1戸，1名（2世？）がある。

(エ) ジー・パラナ（JI－PARANÁ）

本地名は町を貫通している河の名をとったもので，語源はインディオ語より由来する。1962年のBR364国道開通当時は，小集落地であったが，現在では同国道線ではポルト・ベーリヨに次ぐ第2番目に相当する集落部会である。現在名は1977年の部の設立時にVila de

Rondonia から，Ji－Paraná と改名された。更にさかのぼれば，当初はAponso Pena，第2回Hurupá，第3回Vila Rondonia，第4回Ji－Paraná，となっている。

町の人口は約10万人，郡全体で約20万人であり，町の中央をRio machado 河が貫通していて，約120mのコンクリート橋により町が2分割されている。

町内の道路舗装は皆無の状況にあり，埃っぽい。アリケメスから170km地点ビレナから311kmと，中間位置にあるためトラックが多く停泊して，宿場町といった感じである。

産業として，農産物はコーヒー，ココア，ゴム，米，トウモロコシ，ササゲ豆，牛を生産し，周囲には立派な木材モグノ，セドロ，セレジェーラ，イブラナ，アンジェリン，マラカチャーラ等があり，市内には製材工場が大小15（特大が5工場）あって稼動し，製品は南伯へ移出されている。又，鉱物関係では，錫を産し，政府指定の会社が市内とアリケメスに店をもち，Cr$ 300.00／Kgで購入している。

公共施設関係は学校，小・中，計5校，病院，公1，私9，計10，電話局（近日中に直通通話方式採用の予定），テレビ局1（Canal 5），ラジオ局1，郵便局1，飛行場1（軽中型飛行機の発着が可）がある。

また，銀行関係はブラジル銀行，アマゾニア銀行，BAMELINDO銀行，BRADESCO銀行（私），REAL銀行（私）等があって業務を行っている。

その他に新聞社1（A Jorscal Parabra）がある。

日系戸数は21戸，108人調査出来たが，大多数は農業か商業を営んでおり，続いて工業，医師，サラリーマンの順となっている。

在住日系人は，アリケメスと同様に二世が中心となっており，日系の文化団体も組織すべく運動中である。

(オ) プレジデンテ・メジシ（PRESIDENTE MÉDICI）

この町は1,000戸内外の小さな集落を形成している町で，周囲は一円牧場地帯となっている。地形は比較的波状地形となって，起伏はオーロ・プレットとは異なる。土壌は黄色砂壌土で肥沃とはみられない。

日系戸数は4戸，２６人で，この他に日系女性が伯人と結婚している者が3戸，約１５人居住しているとみられる。これを加えると，約7戸となり，主な職業は商業と牧畜の兼業である。

(カ) カコアール（CACOAL）

アリケメスに次ぐ活気のある町で，想定人口約5万戸で，産業はコーヒー，カカオ，米，牧畜，材木等である。土壌は黄色砂土壌で，肥沃とは言えない。

日系人戸数は商業，農業，サラリーマン，医師等と兼業している。当地の特色といえることは，医師，ラボラトリーを開業している者も居住しているのが他の地域と異なるところである。

調査戸数１２戸，４１人の他に伯人と結婚している日系女性が1戸，4人が居住している。

(キ) ピメンタ・ブエノ（PIMENTA BUENO）

この町は，カロアールとほぼ同規模の町で推定人口5～6万と言った程度の集落地である。主たる産業は牧畜，材木，コーヒー，カカオ，米，フェジョン等を生産する。

日系人は主に農業を中心に営んでおり，調査戸数4戸，２１人。この他にＢＲ３６４国道から東方向へ約３０㎞の支線にエスピロゴンドエステと云う集落地がある。この町を中心に約4戸推定約２１人が居住している。（家族名，①藤沢マウロ，木材商，6人，②森本（医師）4人，③河波，農業，8人，④笠原，3人），このエスピゴン・ドエステの調査は出来なかったので，聞き取り情報によるものである。

(ク) ビレナ（VILHENA）

この町は，本調査の最終地点で，マットグロッソ州へ約２０㎞位であり，ピメンタ・ブエノから当地までの間，土壌は前述のとおり砂地で，植生は一帯灌木林，地形平坦，海抜約６００ｍの台地となっている。州都ポルト・ベーリヨ市の気候より，凌ぎ易い場所である。

道路はこの付近一帯の土壌が砂地であるため，砂漠の中の道路同然で大型トラックまたは小型車は砂にめり込んで通行困難な個所が沢山あり，我が調査車（コンビ車）も通り過ぎのトラックから牽引を受けて，よう

やく目的地へ到達出来た。

従って，下記のコロラド（COLORADO）には，通行困難のことから調査出来なかった。その平坦な台地の真中にVILHENAの町があり，人口約2万戸で町の区割りが整然としていた町で，道路に沿って細長くなっている砂漠の中の町と言った感じである。

この町の主な公共施設は，小中学校2，高校1（普通科，経理会計科）病院，公1・私2，電話局1，電力州直営，火力発電（点灯時間9時～24時まで），テレビ局1（Canal 5），バス便約10社，飛行場1ケ所，ローカル線TABA社外，AEROクラブがある。町の主な産業は，製材工場の外，周囲は牧場地帯となっている。

日系人居住者は，調査済みが5戸，20名であるが，この外に3戸推定16人｛鈴木，村上（妻伯人），平田パウロ（元連邦議員平田進氏の甥）は不在のため調査出来なかったが，同地居住者より聴取したものである。従って，当地には合計8戸が居住している。

更に本BR364国道よりボリビア国境方向へマットグロッソ州境に約90㎞地点の場所にコロラド（COLORADO）という町があり，この近辺に約9戸（松原，農業6人，森川（兄弟），農業，8人，長野，医師，4人，その他3戸，計6戸，推定36人）が居住し，農業，商業等を営んでいるとのVilhenaの日系人の情報である。

土地は，テーラロッシャ（Terra Roxa）で肥沃土地帯で，主にコーヒー，牧畜，木材が中心となっているとのことである。両地域を合計すると14戸，72人となる。

(ｲ) その他の地域

A　ポルト・ベーリヨ市内

南伯方面（主にサンパウロ州）からの転入者が主であり，農産物卸商，電気修理業，商業，銀行員，公務員，電力会社等に従事して約20戸，ほとんど二世である。

B　ポルト・ベーリヨ市郊外

製材業を営み，1戸（菊地）が在住している。

C　カンディア（ポルト・ベーリヨ市から南へ約20㎞地点）

農業経営で，２戸在住している。

D　グァジャラミリン（ボリビアとの国境の町）

農業経営で，１戸（向山）が在住している。

付表　（地区別日系居住者数）

	ドレーセ・デセッテンブロ	アリケメス	ジャルー	オーロ・プレット	J.パラナ	P.メジン	カコアール	ピメンタブエノ
戸　数	15	37(6){3}	3(1)	3(1)	21{1}	4{3}	12{1}	4
計	15	46	4	4	22	7	13	4
人　数	104	179(30){15}	15(5)	9(1)	108{3}	26{15}	41{4}	21
計	104	224	20	10	111	41	45	21

	ビレーナ	エスピゴンドエステ	コロラド	ポルト・ベーリヨ市内	市郊外	カンディア	グアジャラミリン	合　計
戸　数	5	(4)	(6)	(20)	(1)	(2)	(1)	
計	5	4	6	20	1	2	1	154
人　数	20	(22)	(36)	(100)	(5)	(10)	(5)	
計	20	22	36	100	5	10	5	774

（注）　日系戸数は 154－ 8※ ＝146戸

日系人数は 774－37※※＝737人

※　伯系戸数は　＝ 8 戸

※※　伯系人数は　＝ 37 人

(2)　地域の日系移住者入植の経緯

ア　トレーゼ・デ・セッテンブロ入植地

１９５３年にロンドニア連邦直轄州直営の日伯混合移住地として開設され，同州の農業振興（ゴム）及びポルト・ベーリヨ市へ農産物の市場供給が目的であった。１９５４年に日本から直来の移住者が２９戸（１９４人）と１９６１年に２戸（８人），総合計３１戸（１８２人）が入植した。

入植地の基幹作物はゴムであったが，そのゴム園が山火事のため入植地は一時混迷状態となり，他州へ転住するものが続出した。その後残住者は養鶏，蔬菜等の生産販売を続け苦闘しながら，ポルト・ベーリヨ市の発展

と共に経営規模を拡大し，営農基盤も確立して来ている。徐々に大型営農へ移行しつつある。

1980年3月末の日系入植者の現在数は15戸104名である。

イ　その他の入植地

BR364（旧BR29）が開通して以来，マット・グロッソ州，ロンドニア直轄州，アクレ州がこの道路により連絡されてから，この地域は他州からの転住者の呼び水となって，地域開発が急速に進んでいる。日系人もこの進展にもれずパラナ州，サンパウロ州方面から主に2～3世が中心となり，大多数は農牧畜であるが，この他に木材業，商売，医者，サラリーマン等の順で転住定着している。

特に大きな特徴としてはアリケメスにパラナ州でコーヒー栽培していた農家が，近年，連続的に被害を受けた霜病害により転住して来ている。また，ジー・パラナには（旧称，ビラロンドニア）商業と大牧場を目的とした人達が，日系集団地を形成しつつある。

従って，当地域では一世の大半は戦前の移住者で既に高令に達している者が多く，各家庭の中心は2～3世となっているが，日本語教育，日本文化の吸収をするべく，文化団体（アリケメス日伯体育文化協会，42会員）を組織し，活動を行なっている。またジー・パラナ地域においても同様の団体を結成する動きがあって，好ましい傾向にある。

(3)　日系人在住家族数

	アリケメス	ジャルー	オーロ・プレット	ヂー・パラナ	P・メジン	カコアール	ピメンタブエノ	ビレーナ	計
戸数	37	3	3	21	4	12	4	5	89
人数	179	15	9	108	26	41	21	20	419

（注）　一家族平均4.7人となっている。

(4)　家族状況

ア　年令別人数構成

	0～6才	7～15才	16～25才	26～35才	36～45才	46～55才	56～65才	66～	未記入	計
人数	92	96	60	64	51	21	14	8	13	419

イ　性別人数構成

	男	女	不　明	計
人　数	218	188	13	419

(5)　配合婚の状況

ー家長の妻が日系か非日系かー

	家長が一世		家長が二世		計
	日　系	非日系	日　系	非日系	
人　数	19	2	31	25	77

ただし，家長数８９人の中独身者９人，未亡人１名，不明者２名を除く７７名。これによると，家長が一世の場合，配偶者が日系である例が圧倒的に多いが，家長が二世の場合，これが日系，非日系の目立った差はない。家長が二世であるといっても(7)の在伯年数からみると４１年以上のものが多い中でも配偶者の日系が多いことは戦前および戦後間もない日系社会の思想の影響が反映されたとも思える。

(6)　国籍所有の状況

	日本籍	伯国籍	不　明	計
人　数	35	371	13	419

（注）　伯国籍371名の中，帰化によるもの９名を含む。

(7)　家長の在伯年数

ー但し，家長が日本直来者のみを対象ー

	6～10年	11～15	16～20	21～30	31～40	41～	不　明	計
人数	1	0	2	6	0	18	1	28

従って，日系２・３世家長世帯戸数が６１戸である。

(8) 家長の出身地方

ー家長が日本直来者である２８戸のみ対象ー

	北海道	東北	関東	中部	関西	中国	四国	九州	不明	計
人数	1	3	2	7	2	2	1	8	2	28

但し，沖縄県出身者はなし。

(9) 家長の学歴

(8)～(10)について，アリケメス地区３７戸，１７９名については調査しなかったため，不明の２戸，１３名と共に集計出来なかったが，残る５０戸についての結果は次のとおり。

	小　卒	中　卒	高　卒	大　卒	計
人　数	26	3	15	6	50

高等小学校は中卒，旧制中学職業学校は高卒扱いとして集計したが，２世の家長の場合，移住後の開拓当時の厳しい社会環境等の事情から，小学校のみの学歴者が多く，特に４０才台以上の家長（二世）が圧倒的に多い。逆に３０才台以下の二世の家長は少くとも高卒の学歴を有している。

(10) 家族の学歴

	小　卒	中　卒	高　卒	大　卒	計
人　数	30	1	19	12	62

小卒は圧倒的に配偶者が占めるが，これも(5)と同じ事由によるものといって良い。

(11) 子弟の就学状況

	小学生	中学生	高校生	大学生	計
人　数	39	19	13	0	71

５０戸，２２６名の調査結果就学数の合計は７１名であった。従って，未就学数は４３名いることになる。

(12) 家長の職業

	農業	商業	工業	医師	技師	会計士	公務員	事務員	その他	無職	計
戸　数	42	27	4	4	0	1	3	4	0	2	87
内兼業者	0	7	1	0	0	1	0	1	0	0	10

不明者２名を除き８７名の中４２名が農業者であり，兼業農業者を含めれば５２戸が農業を営んでいる。これは地域の性格上当然のことといえる。逆に地域の性格からすれば商業者が２７名（中７名は農業も兼ねている）も，いるのが目立つ。商業の内容は雑貨と商売，宿泊飲食業，電気修理業等である。工業の内訳は，自動車修理工場，製材所経営であり，公務員は教師，事務員は農協，銀行等の勤務サラリーマンである。なお，会計士は会計事務所経営であることから，独立させた。

(13) 農業経営作目

	蔬　菜	養　鶏	雑　作	ピメンタ	カカオ，カフェー	牧　畜	計
人　数	0	0	1	0	46	5	52

兼業農業者も含め，５２戸の農業者の経営作目上の分類をみると圧倒的にカカオ，カフェーが多い。これはロンドニア直轄州開拓の経緯そのものを物語るもので，同地域のＩＮＣＲＡによる植民地計画そのものの反映である。

牧畜を行っているものは農業を兼業とするもののみである。

(14) 農業経営の規模

－土地所有面積による－

本来ならば農業所得，農家純資産等から，経営規模をみるべきであるが散在移住者の場合，事業団の援護は全くかかわりないこともあり，経済的調査は被対象者の好まないところであり，調査し得たとしても正確度において大きく欠けるため，土地所有面積により，その規模を推定することとした。

	0～25 ha	26～50	51～100	101～500	501～1,000	1,001～5,000	5,001～10,000	10,001～	計
人数	0	2	15	30	1	3	1	0	52

調査した８９戸の日系散在移住者の農地所有の総面積合計は 18,585 *ha* であり，農業経営者（兼業者を含め）の平均土地所有面積は 357.4 *ha* となっている。

調査地域は主としてINCRAによる植民地計画の中に包含されている地域に在住するものが多く，住居は市街地に有し，農場に通作するものが多い。しかしながら，本調査には市街地に有する宅地は含めなかった。

2 アクレ州

(1) 地域の概況

アクレ州はブラジル国西北部に位置し，国内側ではアマゾナス州，ロンドニア連邦直轄領（州）に，国外側ではペルー国とボリビア国に接する面積 152,589 ㎢を有する州である。

ブラジル国内標準時間（４帯ある）の内，主都を含む主要都市が属する時間帯からはなんと２時間の時差がある，アマゾンでも最奥の地である。

人口は１９８０年１０月の国勢調査によれば僅かに 301,916 人で，しかもこの内約５０％は州都リオ・ブランコおよびその周辺に集中している。

産業は従来からの採取産業としてのゴム，パラー栗，および木材が主体であり，近年になってから米，トウモロコシ等の雑穀栽培および牧畜，カカオ，カフェが導入されて来た。

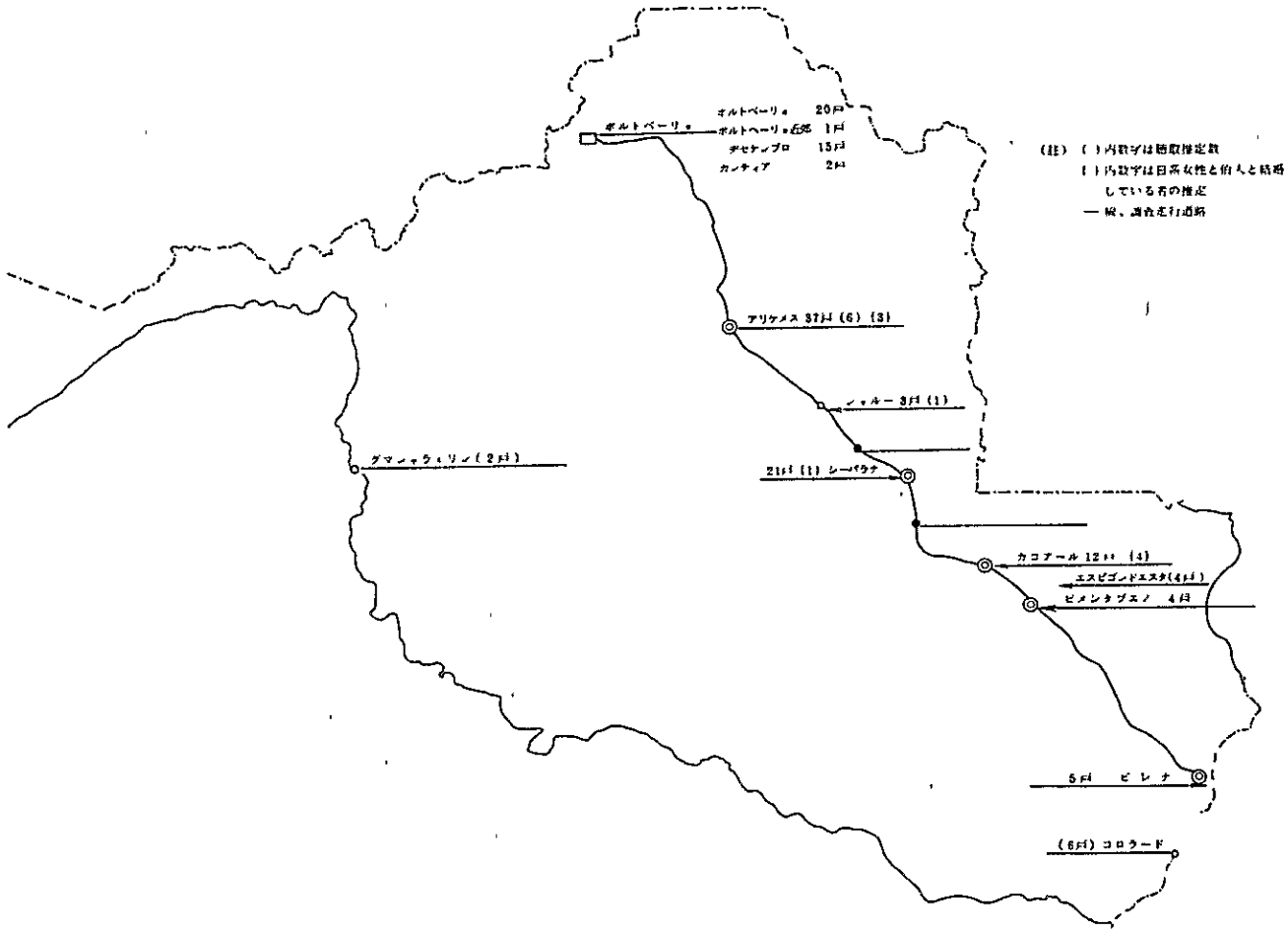
連邦政府はアマゾン開発計画の一環としてアクレ州内にも拠点開発計画を有しており，その内容はリオ・ブランコ～クルゼイロ・ド・セール沿線に於ける有用森林木材開発およびゴム生産振興対策が中心となっていると共にこれに伴うリオ・ブランコ港の建設，農産物貯蔵庫の建設等があるが，ブラジル国内でも最も開発の遅れている州からの脱皮は容易ならぬものがある。

(2) 日本人移住の経緯

戦後，日本からの海外移住再開の中で，アマゾン各州は競って日本人移住者の導入を計画したが，アクレ州においても州都リオ・ブランコ郊外のキナリー郡に州有地を提供，１３家族，９１名が１９５９年に入植した。

ところが，市場狭少の地での移住者の生産活動には限度があり，現在迄同地に残留しているものはこの内では２家族が中心となった分家を含め，６家

ロンドニア直轄領内日系人分布状況



族のみで，他はベレーン，サンパウロなどに転住して行った。

その後１９７５年以降になってから南伯地方の地価の高騰および政府の積極的なアマゾン開発に呼応した形でサンパウロ州，パラナ州の日系二世を中心とする転入者が定着，今日では合計２４家族となっている。

(3) 日系人在住家族数

	リオ・ブランコ市	キナリー郡	ボッカ・ド・アクレ街道	計
日系人在住家族数	15	4	5	24

今回の調査により把握出来たアクレ州内の日系人在住家族数は２４家族，１０３名であったが，他に日系女性を妻とした伯人家族が２家族６名あった。この２家族については以下の調査結果集計からは除くものとした。アクレ州への日本直来入植は前述のとおり，１９５９年の１３家族９１名であるが，以降の日本直来入植者は皆無である。この１３家族の多くがその後州外に転住するとともに，１９７５～１９７９年の間に，南伯地方から日系２世を中心とする転入者があったものであるが，隣接のロンドニア直轄領に比し転入者は著しく少ない。これは州内に多くの肥沃な土地を有しながら公的（ＩＮＣＲＡ）にも私的にも農業開発計画に伴う入植地事業がなかったこと，並びに南伯との間を陸上でつなぐ，クヤバーポルト・ベーリヨ間国道が開通はしたものの，未舗装のため雨期の間そのほとんどが通行不能となる道路条件によるものである。

注：他にリオ・ブランコ市に日本人一世の女性を妻とする伯人家族が２家族ある。

(4) 家族状況

ア 家族の年令構成

	0～6才	7～15	16～25	26～35	36～45	46～55	56～65	66才～	計
人数	21	19	19	15	15	5	6	3	103人

一家族の平均家族人数は4.29人と少なめであるが，これは，日本直来時の家族子弟が分家したこと，並びに日系２世の他州（主としてサンパウロおよびパラナ州出身）からの転入者が年令的に比較的若いためである。

イ　家族の性別構成

	男	女	計
人　数	54	49	103人

(5)　混合婚の状況

	家長一世		家長二世	
	妻日系	非日系	妻日系	非日系
人　数	7	5	9	1

注：独身者２名を除く２２家族のみ。

これによると家長が二世の場合より一世の場合の方がはるかに非日系人との結婚数が多くなっている。これは，家長が一世即ち日本直来で同地に入植した家族が極く少なかったことに重ね，同地域への定着が更に少なく，このため結婚に際し非日系人を対象とせざるを得なかったことに対し，家長二世は多くがサンパウロ，パラナ州出身者でその地域の日系社会での結婚を了した後，アクレ州に転住したと云う背景がある。

(6)　国籍所有の状況

	日本国籍	伯国籍		計
		伯国生	帰化	
人　数	19	80	4	103人

(7)　家長の在伯年数

日系二世が家長となっている１１家族を除く１３家族について在伯年数を見ると次のとおり。

	16～20年	21～30	31～40	41～	計
人　数	1	10	0	2	13

４１年以上在伯者の中１名は１９１７年ペルー移住者，１９２０年アクレ州に転住した者である。

(8) 家長の出身地方

	北海道	東北	関東	中部	関西	中国	四国	九州	沖縄	ブラジル	計
人数	1	0	0	3	2	0	1	6	0	11	24人

出身県別にみると長崎出身の4家族が最も多く，熊本2，和歌山2となっている。

(9) 家長の学歴

	小学課程	中学課程	高校課程	大学課程	計
人数	2	9	7	6	24人

家長として移住したものおよび幼年時移住し現在家長となっている一世は共に学歴が低くなっている。大学卒の6名は全て二世で医師，技師等であるとともに農牧業の経営者でもある。更に彼等はサンパウロ，或はパラナにおいて大学を了しており，ブラジル国内でも最も奥地といえるアクレ州において奉職していることは注目に値するものである。

(10) 家族の学歴

	小学課程	中学課程	高校課程	大学課程	計
人数	13	17	5	5	40人

(11) 子弟の就学状況

	小学生	中学生	高校生	大学生	計
人数	7	10	2	0	19人

未就学令児童はほかに20名であった。

(12) 家長の職業

	農業	商業	工業	医師	技師	会計士	公務員	会社員	その他	無職	計
人数	11	2	2	1	2	0	5	0	0	1	24人

農業者の中3名は製材業，商業(2)を兼業しており，商業者の中1名は農場を所有しているほか，医師および技師の1名も農場を経営している。工業と

とあるのは共に自動車修理業である。公務員は，州および市勤務の職員のほか，ゴム検査官1名が含まれる。

03 農業経営作目（経営主体となっているものによる）

	蔬　菜	養　鶏	雑　穀	ピメンタ	コーヒー	牧　畜	計
人数	3	2	3	1	1	4	14人

農業を主として経営している者１１名および兼業者3名の計１４名について経営作目を調べた結果上表のとおりである。蔬菜主体経営の3名の中2名は他にコーヒー栽培も行っている。

また，兼業農業の3名はいずれも牧畜経営を行っており，1名の専業牧畜経営者は，土地所有面積40,000ヘクタール，牛1,000頭と転住後1ケ年程度にかかわらず開発進度は極めて高い。

04 農業経営の規模（土地所有面積による）

	0～25ha	26～50	51～100	101～500	501～1,000	1,001～5,000	5,001～10,000	10,000～	計
人数	0	6	1	2	0	1	0	4	14人

農業経営の規模を土地所有面積のみにて判断することは必ずしも正しい見方ではないが，散在移住者のごとく事業団の援護にほとんど無縁の移住者調査に当って農業所得或は資産調査を行うことは，従来の経緯からも好まれないことから，調査項目に入れておらず，土地所有状況により経営規模を見ることとした。最低土地所有面積は３０haであり最高土地所有面積は40,000haである。

アクレ州在住日系人２４戸による土地所有面積の合計は87,546ha（住宅，店舗等住宅地は含まず）と極めて広大な土地を所有している。なお，土地所有面積こそ少いとはいえ，そ菜，養鶏の計5家族は，その生産物のリオ・ブランコ市および周辺への独占的市場を有しており経営収益は高い。

なお，非農業者（兼農業を含む）１３名のうち家長の学歴で大学卒が6名，高卒3名，小中校卒が4名となっている。小中卒の4名の職業は公務員2，自動車修理経営1，商業（雑貨商）1となっており，公務員2名が低学歴による低所得が想像されるほか，他は比較的安定した経済状態にあると判断し

て良い。

(5) その他の状況

ア 生　活

農家を含めた全戸の８０％が市街地に住宅を有し居住しているため都市生活を享受している。しかし，ブラジルの最も奥地の州であるところから，一面において道路事情が悪く，雨期においては生活物資の円滑な流入がさまたげられる場合があるなど，奥地性を特徴づけている。航空路は毎日マナウス，ベレン或はリオ，サンパウロへの便を有している。

イ 社会階層

アクレ州はごく一部の高所得者と大多数を占める低所得層にわかれ，日系人は，その教育水準および経済力から数少い中間層の一部を成している。日系人は，今後更に経済力を蓄積し，子弟は各分野に進出し個々の日系人の社会的地位は向上するものと思われるが，日系人の絶対数が少いため，一つの社会的影響力をもった集団としての日系社会の形成は困難とみられる。

ウ 日本人会

アクレ州では日系人が州都リオ・ブランコ市を中心とした比較的狭い地域に住んでいることもあり，全日系人を包含した日本人会組織（非法定団体）がある。

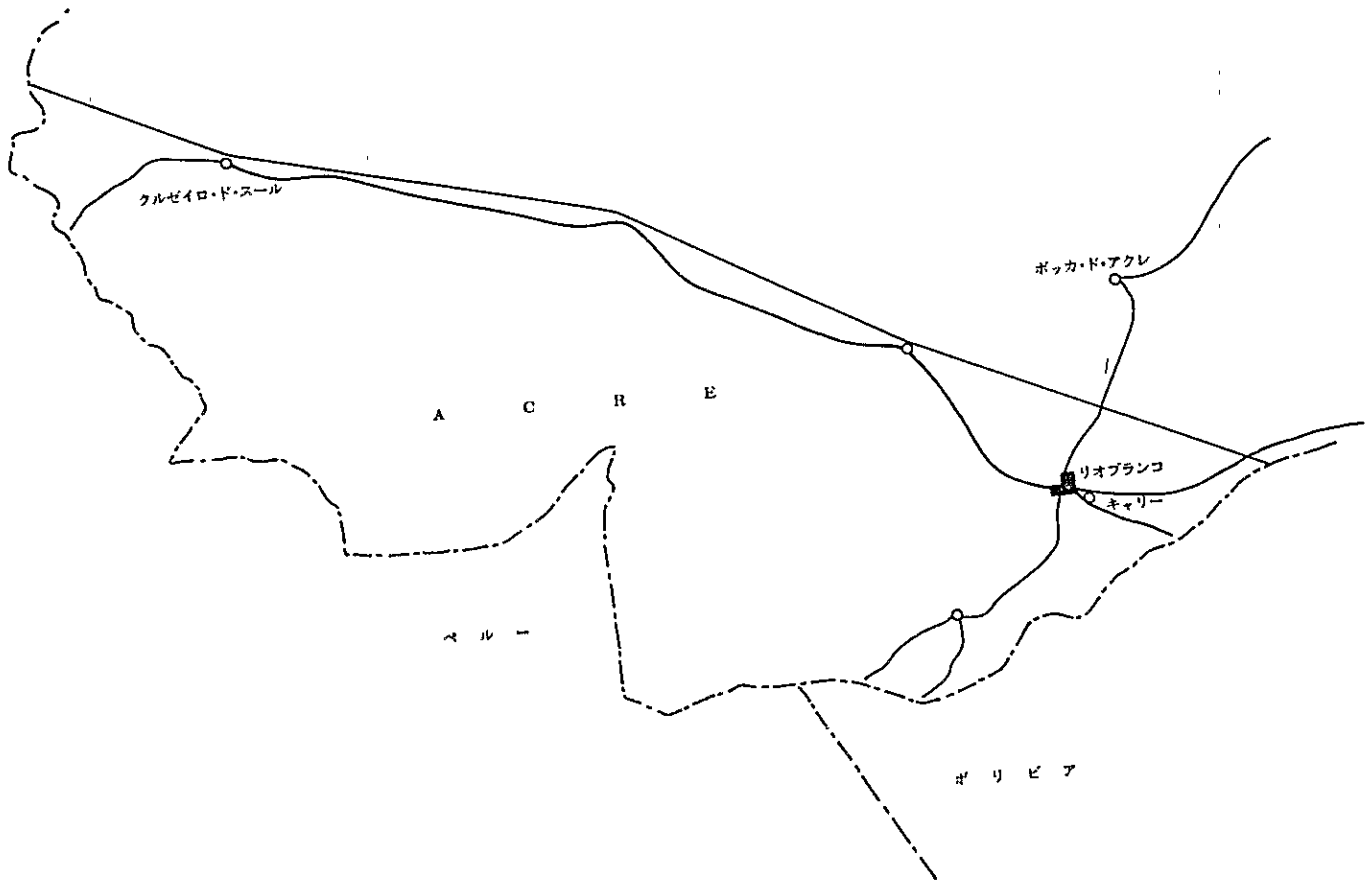
3 パラー州東部

(1) 地域の概況

今回はパラー州東部の内ではブラガンサ，カパネーラ，サンタレン・ノーボ，ノーバ・チレポチア，サリーナス，プリマベラの６郡（約6,456㎢）在住の散在移住者を対象とした。

この地域の一般的な特徴としては大西洋岸に近く，四・六時中風が吹きかなり乾燥する事と，石灰層があって土壌の酸度が比較的低い事である。（場所により異なるが大体PH６程度）。乾燥する事と風が強い事で蚊の発生が少なく，昔より健康地と見なされている。

反面，この地域には原始林は殆んど無く，胡椒栽培に必要な支柱用木材な


クルゼイロ・ド・スール
ボッカ・ド・アクレ
A C R E
リオブランコ
キャリー
ペルー
ボリビア

ど遠方より搬入せねばならない事と，且つ，海岸に近い箇所ではセラード化が進むなど，農耕に不利な点もあるが，全般的に日系農家は豊かである。

彼等の耕地は個別に分散しており転住の時期も，その前の居住地もばらばらで横の連絡も少なく，従って自治会などの組織も無く，実態把握が困難であった。以下郡別に説明したい。

ア　ブラガンサ郡

ブラガンサ郡はパラー州の東端に位置し，アマゾンでは一番早く西洋文明に接した地である。ポルトガルのカステーロ・ブランコ将軍がベレーン市を建設した１６１６年より更に３年さかのぼる１９１３年にフランス人のラバルヂエーレがここに上陸した為である。

その後１９世紀末にはベレーン市間を結ぶ鉄道敷設工事が開始され，１９０８年開通落成している。この主目的はゴムを求めて流れ込む東北伯のおびただしい国内移住者のための植民地を沿線に作ることだった所である。

これ等を後背地として最近までブラガンサ市はベレーン市に続く州内第２位の人口を持つ都市として栄えて来たが，鉄道の衰退と共に漸次後退し今日では州内第４位となっており，交通，通商などあらゆる面で頽勢はおおうべくも無い。

こうした社会的背景の故か邦人移住者は少なく，実質的には４家族のみといえる。地理の上ではブラガレサ郡に所属する者が更に６家族居るが，これは隣接のカパネーマ郡より接近したもので経済・文化等殆んどの面でブラガレサ市よりカパネーマ市に密着している。

イ　カパネーマ郡

ここは州内唯一のセメント工場もあり，また，道路もマラニオン州への国道３６５線の分岐点である他，州道はブラガンサ，サリーナス，プリマベーラ，チレボテウワ，オウレンなど四通八達の感があり，農業，商業も至って活発である。

日系居住者の内９戸は市内に住宅を持っているが，これは或る程度経済的に安定した事を示すもので，概してパラー州内では，特に胡椒の病害発生後，耕地の分散化が著しく，これにつれて本拠を市内に持つ傾向となり，

これがためには分散農場への通勤農業が可能な大型農家であること，つまり経営の安定した農家である事が必須条件である。

ウ　ノーバ・チンボテウア郡

もともとブラガレサ鉄道の小沿道駅として出来たノーバ・チンボテウア村は今日でも依然として寒村に過ぎない。

しかし，これから数km離れてサリーナス街道沿いに集団するように転入した日系農家はいずれも目を見はるものがあり，州内でも上位にランクされる大型農家となっている。

ここに日系農家が転住する足がかりは，1959年設立のCia Plantação de Pimenta do Reino do Brasil（代表，辻小太郎，長谷川貞雄）で，この社員10家族の入植が呼び水となったものである。

しかし，奇異な事には数年ならずして同社が解散した事もあって，この10家族は1戸もここに残っていない。

エ　サンタレン・ノーボ郡

1961年新設の小郡で，面積294㎢に過ぎない。ここは郡の誕生と同時に日系農家の導入を積極的にはかったが，その多くは通勤農家で定住する者は僅か4戸である。

海岸に近い事から海産物には恵まれているが，農業にとっては耕地が無償であった事以外，さしたる利点は見出せない。

オ　プリマベーラ郡

当地の日系農家は殆んどカパネーマ及びノーバ・チンボテウア両郡在住者への第2耕地で，定住者は2戸のみである（今回調査1戸のみ）。

土地は起伏が少なく農業には適しているが，道路が発達している事と，近くに都市を控えている関係もあって，第2耕地的通勤農場の性格は一層強まるだろう。

カ　サリーナス郡

サリーノ・ポリス市は州内最大の海岸行楽地で，近年都市として急速に発達しているが，農業面では必ずしも恵まれているとは言えない。

それはこの地方の中でも同郡が特に乾燥著しく，原始林も無く，セラード化が進んでいるためで，4戸居住の日系も郡内では農業を行っていない。

(2) 地域の日系移住者入植の経緯

アマゾン最初の移民としてトナアスーに入植（当地のアカラ植民地）した邦人がマラリア熱に苦しめられ，退耕が相ついだ事はつとに知られる所であるが，南伯までのがれられなかった者の多くはこの地域のカパネーマ郡に転住した。

第1回トナアスー入植の市原津南三（83才）一家がその第1号で1930年，つまり移住の翌年には早くも当地に移っている。その後20戸以上に増えたと云う事だが，戦前移住者で現在残っているのは分家をも含めて6戸のみである。

戦後移住者では前述のノーバ・チンボテウアに入った Cia de Plantação de Pimenta de Reino do Brasil 社の10家族がはしりで，すっかり人間は入れ替ったが，ここだけが一応集団を形成，自治組織（親和会）がある他は胡椒病害を逃れて地理的にも時期的にも分散転住した者で，むしろ密集する事や往来を忌避する傾向にある。

(3) 日系人在住家族数

地区名	調査	未調査	計
ブラガンサ郡	10戸	一戸	10戸
カパネーマ〃	20	2	22
ノーバ・チンボテウア〃	20	—	20
サンタレン・ノーボ〃	5	—	5
サリーナス〃	4	—	4
プリマベーラ〃	1	1	2
計	60	3	63

(4) 家族状況

地区名	家族人数	性別		年令構成								
		男	女	1～6才	6～15	16～25	26～35	36～45	46～55	56～65	66以上	未記入
	人											
ブラガンサ	44	20	24	12	7	4	8	9	2	2	—	—
カパネーマ	102	55	47	11	20	23	15	13	11	4	5	—
ノーバ・チンポテワ	75	34	41	12	17	5	19	10	2	3	7	—
サンタレン・ノーボ	20	12	8	5	2	5	3	1	1	2	1	—
サリーナス	15	7	8	4	5	1	2	3	—	—	—	—
ブリマベーラ	2	1	1	—	—	—	2	—	—	—	—	—
合計	258	129	129	44	51	38	49	36	16	11	13	—

注：サリーナス在住者の内1戸は解答不明確なため除外す。以下同じ。

ア　一戸当り平均家族数

戸数	家族人数	1戸当り平均
59戸	258人	4.37人

イ　男女の比率

男性	女性	比率
129人	129人	1:1

ウ　年代構成

年代別	幼児期（1～6才）	青少年期（7～25才）	壮年期（25～65才）	老年期（66才以上）
人数	44 人	89 人	112 人	13 人
1戸当りの平均	0.75 人	1.51 人	1.90 人	0.22 人
全体に占める率	17 %	34.5 %	43.5 %	5 %

年代の区分については必ずしも適格とは言えない要素もあろうが，一応コロニアで一家を構える年令を26～65才迄と見なし，これを基準として前後を定めた。この場合，壮年の1戸当り平均は1.9人で若干の独身者を考慮すると，先ず妥当な数字と言える。

また，幼児の平均が0.75人と1戸当り1名にも満たないのは大半の夫婦（1戸の構成要員）が未だ若い場合と，逆に育児を終えた高年令のいずれか，またはその複合と思われる。

年代構成で一番多数を占めるのが43.5％の壮年期で，奥地に再移住するにふさわしい働き盛りが揃っている事を示している。

(5) 混合婚の状況

地区別	夫が一世の場合				夫が二世の場合	
	配偶者日系			配偶者非日系	配偶者日系	配偶者非日系
	計	渡航時既婚者	現地で結婚			
ブラガンサ郡	7	2	5	2	—	1
カバネーマ郡	16	3	13	3	—	—
ノーバ・チンボテワ郡	15	5	10	3	—	—
サンタレンノーボ郡	3	1	2	—	—	—
サリーナス郡	1	—	1	1	—	—
プリマベーラ郡	1	—	1	—	—	—
計	43	11	32	9	—	1

ア 配偶者（妻）の日系と非日系の比率

区分	日系	非日系	比率
全体例	43人（81％）	10人（19％）	1：0.23≒4：1
現地結婚例	32人（76％）	10人（24％）	1：0.31≒3：1

結婚の対象が日系か非日系かを全体的に見ると，日系が81％と多くを占めている。しかしこれは渡航時既に日本で結婚していた者も含まれ，その相手が日系であることは言うまでも無い事なので，これと対比して渡航後現地で結婚した例を挙げるとやはり日系は76％と減少し，非日系がその分増加となる。

イ　一・二世別にみた混合婚の状況（但し，渡航時の既婚者を除く）

一・二世別(夫)＼妻	日　系	非日系
一世の場合 二世の場合	32人(78%) (0%)	9人(22%) 1 (100%)
上記の比率		約1：5

二世，三世と進むにつれて当然混血も進む筈であるが，本調査では例証が少な過ぎた。

(6)　国籍所有の状況

ア　全　般

地区別	日本国籍者	伯国籍者		
		帰化	二世～	計
ブラガンサ郡	13人	3人	28人	31人
カパネーマ〃	34	6	62	68
ノーバ・チンボテワ〃	36	2	37	39
サンタレンノーボ〃	5	1	15	16
サリーナス〃	4	—	21	21
ペリマベーラ〃	2	—	—	—
計	94人	12人	163人	175人
国籍別パーセント	35%	4%	61%	65%

（注：サリーナスの1戸10名を加えた。以下同じ）

イ　戸主の国籍保有状況

項目＼国籍区分	日本国籍者	伯国籍者		
		帰化	二世～	計
戸主	44人	11人	5人	16人
国籍別パーセント	73%	18%	9%	27%

戸主を対象にみると二世，三世は僅か9%で未だ一世の時代と言える。

(7) 家長の在伯年数

在伯年数 / 地区名	0～5年	6～10	11～15	16～20	21～30	31～40	41年以上
ブラガンサ郡	—	—	—	—	8	—	1
カパネーマ〃	—	1	—	1	11	—	6
ノーバ・チンボテワ〃	1	2	2	2	11	—	1
サンタレンノーボ〃	—	—	—	—	3	—	—
サリーナス〃	—	—	—	1	2	—	1
プリマベーラ〃	—	1	—	—	—	—	—
計	1	4	2	4	35	—	9
年数別パーセント	2%	7%	4%	7%	64%	—	16%

（但し，2世を除く）

戦後移住のはなやかさを反映して在伯年数20年代が全体の64%を占めている。

(8) 家長の出身地方

出身県 / 地区名	北海道	秋田	福島	長野	千葉	東京	神奈川	富山	大阪	兵庫	山口	香川	愛媛	福岡	宮崎	熊本	佐賀	鹿児島	沖縄
ブラガンサ郡	1	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1	1	2	1	—	1	—
カパネーマ郡	—	1	1	2	3	—	—	—	—	—	1	1	2	4	—	4	1	—	—
ノーバ・チンボテワ郡	—	—	—	—	—	1	2	1	—	1	1	3	—	3	—	6	—	—	1
サンタレン・ノーボ郡	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—
サリーナス郡	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—
プリマベーラ郡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
計	1	1	3	2	3	1	3	1	1	1	2	4	4	10	2	11	3	1	1

(9) 家長の学歴（新制）

学歴 / 地区名	小　学	中　学	高　校	大　学
ブラガンサ郡	6人	3人	1人	一人
カパネーマ〃	7	10	3	—
ノーバ・チンボテワ〃	3	9	5	3
サンタレン・ノーボ〃	2	1	2	—
サリーナス〃	1	2	1	—
プリマベーラ〃	—	—	1	—
計	19	25	13	3

(10) 家族の学歴

学歴 / 地区名	小学校在学中	小　学	中　学	高　校	大　学
ブラガンサ郡	6人	9人	4人	3人	一人
カパネーマ〃	14	22	18	7	5
ノーバ・チンボテワ〃	15	12	4	5	1
サンタレン・ノーボ〃	3	7	1	—	—
サリーナス〃	6	1	3	—	—
プリマベーラ〃	—	—	—	1	—
計	44	51	30	16	6

(11) 子弟の就学状況

学歴＼年令	6才	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22～	計
小学校中退	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1名
小学卒及び在学生	6	9	4	9	3	6	2	—	2	—	—	—	—	—	1	2	3	47名
中学卒及び在学生	—	—	—	1	—	1	4	2	2	2	1	2	1	—	—	1	1	18名
高校卒及び在学生	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	3	1	5	3	1	2	6	24名
大学卒及び在学生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	1	10	13名
計	6	9	4	10	3	7	6	2	5	4	4	3	6	3	4	6	21	103名
未就学者	—	—	1	—	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1名

（サリーナス郡在住　1戸を除く）

２２才以上で小学中退者１名とあるのは，日本を出発する頃小学校であった者がその後現地の教育を受けなかったものである。未就学者は僅か１名のみで，一応形の上では完璧に近い就学率と言える。

(12) 家長の職業

職種	件数	備考
農業	56件	内，雇用農３戸，商業兼業４件。
工業	0	
商業	7	内，農業兼業４件
医師	0	
会社員	0	
聖職者	1	
無職	0	

03 農業経営作目

件　数	胡　椒	果樹雑作	蔬　菜	養　鶏	畜　産
総件数	47	18	7	0	15
専業件数	23	0	3	0	0

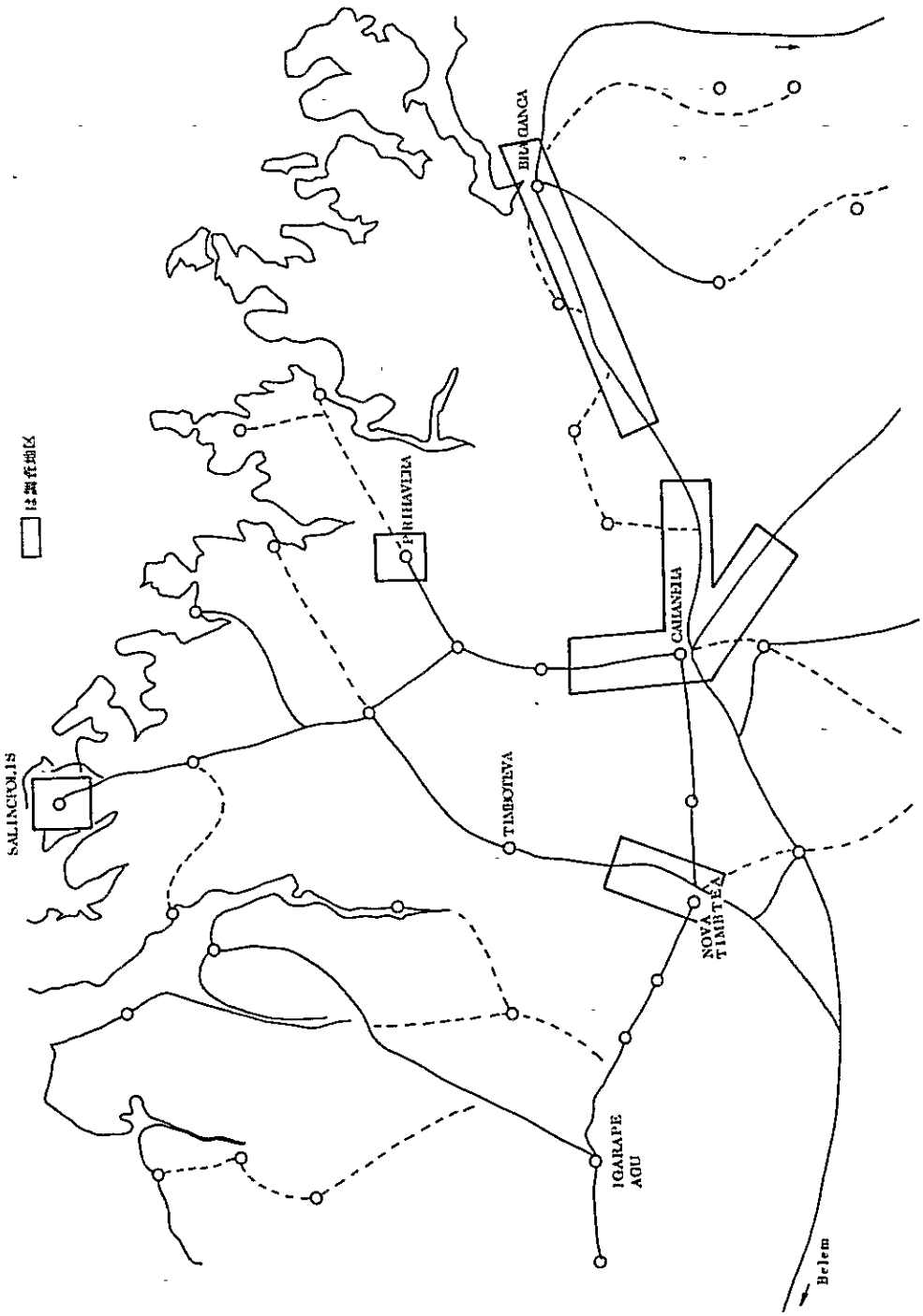
胡椒専業２３件はそれが基幹作物である事を示す。

04 農業経営の規模

地　区　名	戸　数	日系農家総所有面積
ブラガンサ郡	10戸	496 ha
カパネーマ〃	17	7,647.5
ノーバ・チンボテワ〃	20	7,262
サンタレン・ノーボ〃	4	500
サリーナス〃	4	375
プリマベーラ〃	1	75
計	56	16,355.5

注：農業に関係のない者は対象外とした。
（カパネーマ３戸，サンタレン・ノーボ１戸，計４戸）

農業経営の規模については，調査に心よく応じない者もあり，土地所有面積をもってこれに当てる。対象５６戸の総所有地面積は 16,355.5*ha*で１戸平均にすると約 292 *ha*となる。


SALINOPOLIS
PARAVERA
BIA GANGA
CAIANEIA
TIMBOTEVA
NOVA TIMBOTEVA
IGARAPE AGU
Belem

4　パラー州東南部

(1)　地域の概況

国道BR－316号線（Belem～San Luis 間）とBR－10号線（Belem～Brasilia間）以東に囲まれた地域の内カピトン・ポッリ，オーレン，ボニート，の3郡（7,750㎢）とBQ－10号線沿，パラー州東南部の内パラゴミナス，マラバーの2郡（64,541㎢）を含む広大な区域を対象とした。

概して前者は開発が遅れ現在でも原始林が多い。主な産物は木材，牧畜，マウーバ，米，トウモロコシ，綿等で，幹線道路沿いには牧場が目立つ。この牧場には南伯資本の入った所もあり，部分的に地価の高騰を呼んだが全般的にはまだまだ未開発地が多く，且つ，郡役所の入植地計画などもあって安価（7～10万クルゼイロス／25ha）と言える。

幹線道路は一応整備されているが，支線はあまり発達してない。

後者は地理的にはパラー州内であるが，経済・社会環境は殆んど隣接のアサイランジャ，インペラトレス（何れもマラニオン州）と同圏内にあるので概説は後述のマラニオン州西部の項を参照されたい。以下郡別に概説する。

ア　カピトン・ポッソ郡

１９６１年オーレン郡から独立した新しい郡で，このはしりは後述の前田光世（通称コンデ・コマ：柔道家）のコンセイソンに端を発する様である。

これは同コンセイソンが永年開発もされず放置されていたことから，自動的に権利を失い，新しい郡設立に連なった訳で，邦人の力で育てあげる事は出来なかったが，その後１９７２年頃より転住の日系人農家による胡椒はたちまち同郡の生産物の首位に立ち（耕作面積700ha／1,750t　１９７９年統計）今日では経済面で大いに貢献している。

概して当地は海抜７０～８０m，新古生代土壌で地下２０m位に石灰層があると目され，酸度が低く恵まれた土地条件にある。

これを反映して農業は大いに振興，本家筋のオーレン郡より多くの産物を出している。

交通網は幹線道路，州道PA－124号線が将来マラニオン州にも抜けると言われ，また一方，ベレーン　ブラジリア街道沿道の町，イリツイアに

通ずるＰＡ－０１号線も舗装されており，バス便はベレーン間１日３往復があるなど発達している。

日系農家の内６戸は市内に住居を構えており，ここにも通勤型農業が定着しつつある。

イ　オーレン郡

郡役所所在地のオーレン町は人口約１万人の市街地として整った町である。幹線道路は舗装されて交通も頻繁であるが，この州道ＰＡ－１２４の通ずる以前は迂回してグアマ川を小舟で７～１０日もかけてさかのぼるほかなく，陸の孤島だった。この様な不便な所にどうして村落が発生・存続出来たのか不思議である。不思議と言えばアマゾンにはその様な箇所が沢山ある。それなりの理由やまた何か価値のある産物でもあったのだろう。

ともあれこの町は１７５３年創設とあるのでアマゾンでは古い部類である。そして今日では幹線道路の両側は殆んど広大な牧場となっており，僅かな邦人は支線道路の奥に散在しているに過ぎない。

ウ　ボニート郡

１９６１年新設の郡とは名ばかりで未だ入植地のままと云う感じがある。役所の所在地も小集落の域を出ない。幹線道路は幅も狭く未舗装である。

邦人居住者の殆んどは通勤農家の現地管理人が傍に自分の耕地をもって半独立した状態で，未だ小規模であるが，邦人同志の密集を嫌う胡椒栽培にはかえって幸いするかもしれない。

エ　パラゴミナス郡

パラゴミナス郡の日系農家はパラゴミナス町周辺と州境フィリントメリス町（通称ゼロ町）の周辺の２ブロックに分れているが，この間なんと２００㎞余もあり，同じ郡内だと聞かされて驚いた。

パラゴミナス町周辺は且って当団の直営入植地が計画された所であるが，当時入植の５家族は今日では１家族を残すのみである。

その他トナアスーより転住の１戸を含め２戸が定住の他，通勤農耕地は５件ある。

交通は国道ＢＱ－１０号線（Belem－Brasilia）とトナアスーに通ずる州道ＰＡ－２号線がありバス便も多く便利である。

主産物は木材と牧畜，胡椒などで，特に日系農家にとっては胡椒のモノカルチャーから牧畜との複合経営への発展が期待出来る。

一方のフィリントメリス町周辺の日系は転住後日も浅く（古い方で３年）５戸居住しており，内３戸は町内に住んでいる。

当地の特徴は水の無い事で，掘抜き井戸で概ね４００ｍ程の深度があり，一般には歯が立たない高コストである。小川は町より７㎞離れており，洗濯などここまで通っている。タンク車での水売業が見られる。

土壌はテラロッシャに似た赤色ラドリールで，肥沃であり，水が無いのに森林は大樹におおわれている。日系居住者は農業２戸，農商兼業１戸，工農兼業１戸，その他１戸と実の所未だ何が良いのか模索中の感じである。彼等の横の連繋は無く，娯楽も現地のものだけである。

オ　マラバー郡

マラマー郡は１９１３年創設であるがそれ以前よりトカンチンス河を1,500㎞も船で結んでベレン市との関連は密であった。

これはパラー州の主要輸出品であるパラー栗の豊富な産地であった為である。当地が奥地にも拘らず開発の進んだ所であった事は，ここに鉄道があった事で立証されるのでは無かろうか。鉄道は州内ではベレン　ブラガンサ間の他はここだけであった。もっとも，この町より若干下流のツクルイ町までの僅か１００㎞に満たない小鉄道ではあったが，今の様に大型クレーンも無い頃，汽車や貨車，レールなどを運ぶだけでも大難事だった事だろう（最近は廃線となっている）。

邦人との縁はわりと古く１９２９年南拓社長の福原氏がコンセイソンの選択権を得ている。しかし，実際に邦人がここに定住したのは最近の１９７３年からで，さしたる業績は未だ見られない。しかも，６戸在留中４戸は二世で日系人としての特色が薄い感触である。

(2)　地域の日系移住者入植の経緯

邦人入植の経緯を見るに，少なくとも３つのブロックに分けざるを得ない。１つは，オーレン，カビレポッソ，ボニートの３郡，２つ目はパラゴミナス郡，そして最後がマラバーである。

その第一は１９３１年山田義雄氏を団長とする１家族，４単身が柔道家前

田光世（通称コンデコマ）氏のコンセイソン１０万町歩に入植した事で，オーレン町の対岸より小川を南下測量を行ったが，資金難のため入植地の造成を見ないで中止となっている。これが上述のとおりカピトンポッソ郡誕生の礎となった箇所である。

その後４０年程の空白があって，１９７２年から胡椒病害を避けた飛耕地の形で邦人の転入者が再開した。その一邦人の耕地からたまたま杭木の古いものが発見され，前田コンセイソンの名残りである事が判明した次第である。今日ではこのブロックの日系は通勤農家（非居住農家）を加えると６０戸近くに及び，胡椒の産地となっている。

その第２のパラゴミナスは１９６０年開通のＢＱ１０号線（ベレーン・ブラジリア間国道。当時１４号国道と呼んだ）により誕生したもので，邦人の入植もこの盛況にかかわっている。

第３のマラバーは前述のとおりで，アマゾン横断道路の開通（１９７３年）や，カラジャス鉄鉱山の発見，ツクルイ水力発電所建設の着工など地域開発の波にのって自然に転入したものである。

(3) 日系人在住家族数

地区名	調査戸数	未調査戸数	計
カピトンポッソ郡	14戸	—	14戸
オーレン〃	6	—	6
ボニート〃	4	—	4
パラゴミナス〃	7	—	7
マラバー〃	6	—	6
計	37戸	0	37戸

(4) 家族状況

地区名	家族人数	性別		年令構成								
		男	女	1～6才	7～15	16～25	26～35	36～45	46～55	56～65	65以上	未記入
カピトンポッソ	人 87	人 45	人 42	人 22	人 22	人 5	人 12	人 13	人 4	人 1	人 4	人 4
オーレン	42	16	26	13	14	—	3	8	1	—	3	—
ポニート	9	7	2	3	—	1	4	1	—	—	—	—
パラゴミナス	25	12	13	7	6	3	5	3	—	1	—	—
マラバー	20	11	9	4	1	4	6	1	4	—	—	—
計	人 183	人 91	人 92	人 49	人 43	人 13	人 30	人 26	人 9	人 2	人 7	人 4

ア　1戸当り平均家族数

戸数	家族人数	1戸当り平均
37戸	183人	4.95人

イ　男女の比率

男性	女性	比率
91人	92人	1:1.01

ウ　年代構成

年代別	幼児期（1～6才）	青少年期（7～25才）	壮年期（25～65才）	老年期（66才以上）
人数	49 人	56 人	67 人	7 人
1戸当り平均	1.32 人	1.51 人	1.81 人	0.19 人
全体に占める率	27 %	31 %	37 %	4 %

（但し、未記入者4名を除く）

一戸を構成する最少単位を夫婦として壮年層においてみる時，一戸平均1.81人は此の条件を満さない若干の独身者が居る事を示している。実際には若年の夫婦もあろうし，一戸の中に複数の夫婦が居る事もあるので当然数字だけの判断は出来ないにも，現実に近い数字となっている事は興味深い。よって一応これを基準として他の年代層を見る時，幼児層と青少年

層がそれぞれ平均 1.32 人と 1.51 人で殆んど同じような率となっている事は子供が幼児から青年まで幅広く居る事を示している様で，安定した家庭またはその集団が推測できる。概して遠隔地に転住散在する場合，単身か結婚初期の分家独立時，或は逆に子供の教育を終えた高令層による場合が多い筈であるが，ここではそうした特徴は見当らないと言える。

一方，老人層が約５戸に１人の割は若干少ない感じでもともと分家型の転住が多かった事を意味するのではなかろうか。また，年代別の全体に占める割合を見た場合，壮年の３７％に対する青少年の３１％は稼働力の良さを示していると言える。

(5) 混合婚の状況

地区名	夫が一世の場合				夫が二世の場合	
	配偶者日系			配偶者非日系	配偶者日系	配偶者非日系
	計	渡航時既婚者	現地で結婚			
	人	人	人	人	人	人
カピトンポッソ郡	12	4	8	—	—	1
オーレン〃	3	—	3	2	—	—
ボニート〃	3	—	3	2	—	—
パラゴミナス〃	3	1	2	2	—	1
マラバー〃	1	—	1	2	2	1
計	22	5	17	8	2	3

ア 配偶者（妻）の日系と非日系の比率

区分	日系	非日系	比率
全体例	24人（67%）	11人（33%）	2.18：1≒2：1
現地結婚例	19人（63%）	11人（37%）	1.73：1≒3：2

全体例でみると，非日系を配偶者（妻）としている場合は３３％，現地結婚例でみると３７％，約５人に２人の割で混血が進んでいる。

イ　一・二世別にみた混合婚の状況（但し，渡航時の既婚者を除く）

一・二世の別(夫)＼妻	日　系	非日系
一世の場合	17人(68%)	8人(32%)
二世の場合	2人(40%)	3人(60%)
上記の比率	約 7：4	約 1：2

本例では二世の混血率が60%と，高率を示し，上記アと比較した時，三世・四世で一層亢進する示唆と言えよう。

(6) 国籍所有の状況

ア　全　般

地区別	日本国籍者	伯国籍者		
		帰化	二世～	計
カピトンポッソ郡	27人	2人	43人	45人
オーレン〃	9	―	26	26
ボニート〃	9	3	19	22
パラゴミナス〃	4	2	18	20
マラバー〃	3	―	17	17
計	52人	7人	123人	130人
国籍別パーセント	35%	4%	61%	65%

イ　戸主の国籍保有状況

項目＼国籍区分	日本国籍者	伯国籍者		
		帰化	二世～	計
戸主	25人	5人	16人	21人
国籍別パーセント	54%	11%	35%	46%

(7) 家長の在伯年数

在伯年数 / 地区名	0～5年	6～10	11～15	16～20	21～30	31～40	41年以上
カピトンポッソ郡	人 —	人 —	人 1	人 5	人 4	人 —	人 1
オーレン〃	—	1	—	2	2	—	—
ボニート〃	—	4	—	1	2	—	—
パラゴミナス〃	2	2	—	—	1	—	1
マラバー〃	—	2	—	—	—	—	—
計	2人	9人	1人	8人	9人	—人	2人
年数別パーセント	6%	29%	3%	27%	29%	—%	6%

（但し、二世を除く）

１５年未満は北伯雇用農（内２名南伯よりの転住），１６～３０年は戦後移住の盛況の反映。

(8) 家長の出身地方

地区別	北海道	青森	山形	宮城	福島	群馬	福井	長野	千葉	神奈川	岐阜	愛知	兵庫	鳥取	山口	徳島	高知	愛媛	福岡	宮崎	熊本	鹿児島
カピトンポッソ郡	—	1	—	—	1	2	—	—	—	—	1	—	—	—	1	1	1	—	—	2	1	—
オーレン〃	—	1	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—
ボニート〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	2	—	1	—	—	—	1	—	—	1	1
パラゴミナス〃	1	—	1	1	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—
マラバー〃	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
計	1	2	1	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	2	4	1

(9) 家長の学歴（新制）

学歴 / 地区名	小学	中学	高校	大学
カピトンポッソ郡	4人	5人	2人	—人
オーレン〃	1	1	3	—
ボニート〃	2	1	4	—
パラゴミナス〃	3	1	1	2
マラバー〃	2	1	3	—
計	12人	9人	13人	2人

(10) 家族の学歴

学歴 / 地区名	小学校在学中	小学	中学	高校	大学
カピトンポッソ郡	11人	13人	5人	4人	一人
オーレン〃	—	1	1	3	—
ボニート〃	7	5	1	—	—
パラゴミナス〃	—	6	—	—	—
マラバー〃	—	4	3	3	—
計	18	29	10	10	—

(11) 子弟の就学状況

年令 / 学歴	6才	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22〜	計
小学校中退	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 1	人 1
小学(在学・卒を含む)	7	8	4	6	3	6	2	—	1	—	—	—	—	—	—	—	2	39
中学(〃)	—	—	—	—	—	—	3	5	2	2	2	—	1	—	—	—	—	15
高校(〃)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	2
大学(〃)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	1	3
計	7	8	4	6	3	6	5	5	3	2	3	1	1	1	—	1	4	60
未就学者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

２２才以上で小学校中退が１名あるが，これは渡航時小学生であって，現地では教育を受けなかった者である。未就学は０で一応日系人の教育熱心が現れている。

(12) 家長の職業

職種	件数	備考
農業	34件	内，雇用農５件，商兼業２件，工兼業１件
工業	1	内，農兼業１件
商業	3	内，農兼業２件
医師	0	
会社員	2	
無職	0	
その他	0	

(13) 農業経営作目

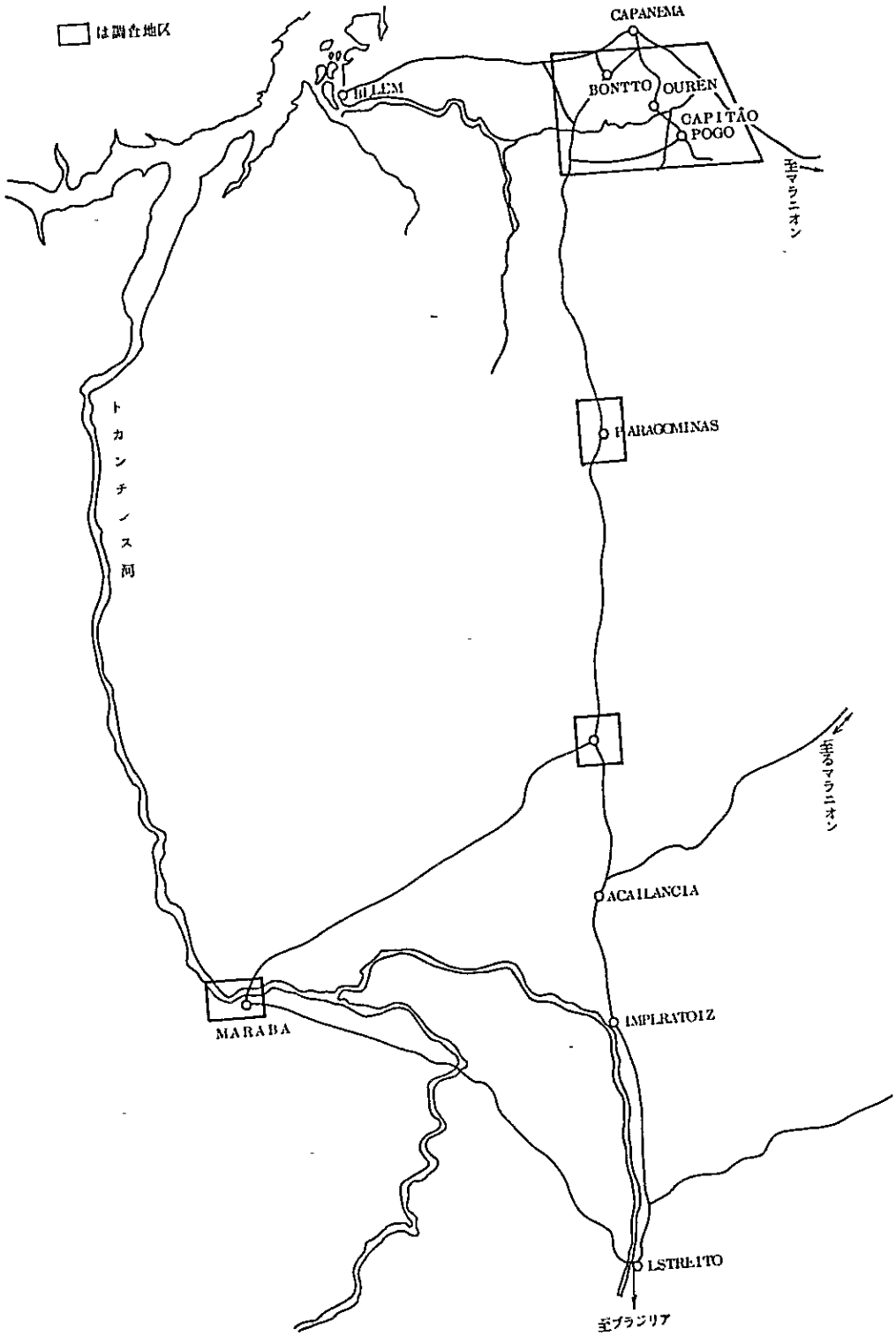
件　数	胡　椒	果樹雑作	蔬　菜	養　鶏	畜　産
総件数	24	9	2	2	8
専業件数	9	1	1	2	1

(14) 農業経営の規模

地　区　名	戸　数	日系農家総所有面積
カピトンポッソ部	12戸	2,709 ha
オーレン〃	5	2,100
ボニート〃	7	350
パラゴミナス〃	7	6,213
マラバー〃	4	550.5
計	35戸	11,922.5ha

注　農業に関係ない者は対象外とした。
（マラバー　2戸）

1戸平均土地所有状況は 340.6 *ha*で，必ずしも妥当とは言えないが経営規模を表すものとする。


は調査地区
CAPANEMA
BONTTO
OUREN
CAPITÃO
POGO
BELEM
至マラニオン
トカンチンス河
PARAGOMINAS
至るマラニオン
ACAILANCIA
MARABA
IMPLRATOIZ
LSTREITO
至ブラジリア

5　マラニオン州西部

(1)　地域の概況

国道BQ－10号線（Belem. Brasilia 間）のマラニオン州，アサイランジャ，インペラトレス。エストレイトの3郡散在日系人を対象とした。

此の地域は事実上国道１０号線の開通により出来た町でわずかにインペラトレスのみが古くから小市街地をなしていた。

国道開通前の当地方の交通は殆んど水運のみで，トカンチンス河の豊かな水量が大陸内奥深くわずかながら文明の浸透を可能にして居た訳だが，面白い事には下流のベレーン市から運んだものでは無く，逆に上流のゴヤス州から下って来たものである。これはゴヤス州が早く拓けた事もさる事ながら，やや下流のツクルイ町（現在ブラジル最大の水力発電所建設中）近くが川瀬となって船の航行を妨げた事にも起因する。

ともあれ，陸の孤島のインペラトレス村は今日では人口２０万の都市となっている他，アサイランジャやエストレイトも交通，通商，農林業に活況を呈しており，且つこの地域が現在ブラジルで最も脚光を浴びたる所となっている理由を以下列挙する。

A　木材資源の玄関口となっている事

木材は南伯諸州では殆んど切りつくし，現在ではその供給源をアマゾンに頼るしか無くなっているが，その最前戦的位置にある。

B　機械化農業とマッチした肥沃な土壌

この一帯はテラロッシャとそれに準ずる肥沃な土壌であるが，これに南伯から浸透して来た大型農業の資力，機械力，流通機構が加わって様相は一変したと言える。

日系農家でこの大型農業に取り組んでいるのは未だ１戸（San Paulo 生れの二世）だけであるが，世界的食糧危機の兆と相俟って伯国でも主食品，特に穀類の不足が深刻となりつつあり，機械化農業の可能なこの地域は益々重要な役割を果す事になろう。

C　カラジャス総合開発との関連

カラジャス鉄鉱山開発を主力とする総合プロジェクトの揺元となっており，同山からマラニオン州イタキー港に至る鉄道工事など既に始っている。

この総合プロジェクトが本格化すると人や資材，産品などの動きが頻繁となりその繁栄は想像を絶するものがあろう。

D　ツクルイダムによる人造湖の影響

１９８３年完成予定のツクルイ水力発電所用ダムによる人造湖の延長は延々３千kmにも及ぶと言われており，物資の運搬やこの豊饒地帯への灌漑による影響は大なるものが期待されている。

この様な環境下で著しく発展しつつある一般社会に比し，日系農家の現状は転住前のパラー州から持込んだ胡椒，蔬菜，養鶏のいずれかまたはその複合の慣習的定型から脱皮できず即応性に欠けるキライはあるが，採来性は明るいと言える。以下郡別に概説する。

ア　アサイランジャ郡

日系は定住２戸，非居住１戸のみである。当地は乾燥が激しい事と地味が肥沃である事が幸いしてトマト栽培に適しており，１９６９年頃より在ベレーンの日系青果商人がその委託栽培を始めた事が起縁となってその後，胡椒園の造成へと進展し日系の定住となったが労働力が少なく，　且つ乾燥の激しい事が胡椒栽培に障害である等問題も多く結局胡椒栽培農家は非居住農家一戸のみとなった。定住者２戸の内１戸は最近まで養鶏業であったが商業に転じ，他の１戸は会社（日系の飼料会社）に勤務している。

交通網は幹線の国道BQ－１０号線（Belem. Brasilia間）の他，　マラニオン州サンルイス市への分岐点ともなっており，物産の集散も活発である。

主産物は木材，牧畜，米，トウモロコシ等で特に木材は路傍のいたる所に山積みとなっており数字で確認出来なかったが至って活況であった。

イ　インペラトレス郡

丁度２０年前までは一寒村に過ぎなかったインペラトレス町が今日では人口２０万の都市となっている。これは国道BQ－１０号線の開通に負う所が無論大であるが，加えて本来地味が豊かであった事，物産集散の要衝にある事等が繁盛の主因と思われる。

主産物は木材，牧畜，穀類等となっているが，日系の参加は皆無に近い。勿論転住後日が浅く基盤が未だ出来て無い為だが，パラー州に比し地価が

高い事（およそ３～５倍）がネックになる懸念がある。因みに後にあげる数表のとおり，一部大型土地所有者を除くと，他はパラー州での１耕地（２５*ha*）にも満たない狭い耕地しか所有してない。

しかし養鶏，蔬菜の面では南伯よりの移入物もあるが概して日系の独壇場である。

なお，日系の定住は１９７２年の３戸が古参で，現在１６戸（７５名）となっているが，自治組織や連絡機関も無く，誤楽も現地のものしか無い。

ウ　カロリーナ郡（エストレイト町）

カロリーナ郡エストレイト町（狭いの意）に延長５６０ｍの架橋があり，Belem－Brasilia 間，国道１０号線では最大の橋であるが，これはまた，トカンチンス河の両岸を結んだ唯一の橋でもある。ここ迄，トカンチンス河を水路で辿ると約2,000㎞と言われており，この上流で，しかも狭い箇所を選んで５６０ｍもある事から類測してみればいかにアマゾン開発が困難であったか想像出来よう。

この一帯は肥沃なテラロッシャで最近ようやく大型機械化農業が浸透しつつあり，1農家で５千～１万*ha*を耕作する者も多い。

日系農家は唯一戸（１９７４年転住）のみだが，この中でも中心人物として重きをなしている。ただ，畑地農業の場合，森林を殆んど切り尽くし，且つ年々土地も衰弱するので，この抜本的対策を今から立てねばやがてサンパウロやパラナ州の轍を踏む事になろう。

(2)　地域の日系移住者入植の経緯

此の地域の日系居住者は北のパラー州から南下した者１４戸，南伯から北上して来た者５戸と南北の接点の感がある。

前に述べた如く１９７２年の転住者が最古参で，未だ日系の歴史は浅い。ここに転住の動機については北から南下した組の場合，パラー州日系商人の商品確保が主因の様である。

その一つは，アサイランジャの項で述べた如く青果商人のトマト確保であり，今一つは養鶏飼料会社のトウモロコシの確保であるが，一方ではパラー州日系農業の消長（蔬菜栽培の衰弱と養鶏業の拡大）に深く関り合った出来事として興味深い。

南伯からの北上組については職業もそれぞれ異なり，個人的色彩が濃い他不詳である。

(3) 日系人在住家族数

地区名	調査戸数	未調査戸数	計
アサイランジャ郡	2戸	ー戸	2戸
インペラトレス〃	16	ー	16
カロリーナ〃	1	ー	1
計	19	ー	19

(4) 家族状況

地区名	家族人数	性別		年令構成								
		男	女	1～6才	7～15	16～25	26～35	36～45	46～55	56～65	66以上	未記入
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
アサイランジャ	7	4	3	2	ー	ー	3	ー	2	ー	ー	ー
インペラトレス	75	37	38	14	14	13	17	5	8	3	1	ー
カロリーナ	4	2	2	2	ー	ー	ー	2	ー	ー	ー	ー
計	86	43	43	18	14	13	20	7	10	3	1	ー

ア 一戸当り平均家族数

戸数	家族人数	1戸当り平均
19戸	86名	4.53人

イ 男女の比率

男性	女性	比率
43人	43人	1：1

ウ 年代構成

年代別	幼児期（1～6才）	青少年期（7～25才）	壮年期（26～65才）	老年期（66才以上）
人数	18 人	27 人	40 人	1 人
1戸当りの平均	0.95 人	1.42 人	2.11 人	0.05 人
全体に占める率	20.9 %	31.4 %	46.5 %	1.2 %

ここでも一戸を構成する最少単位を夫婦（２人）として壮年層にみる時，１９戸あるので３８人を要する事になる。数字はこれを上まわる４０人とあるので全戸この条件を満たして余りある数字だ。ところで現実に各戸を調査すると一戸主だけが寡夫でこの数字が現実に近いものである事が判明した。

年代層別に１戸当りの平均を見ると幼児が約１人，青少年は１.５人に近い数で，比較的ハイエイジの子供を持つ家族構成が推察出来る。

又，全体に占める年代層別の割合は壮年層が約半分に近く，次で青少年層が多く，合せて８０％近くを占めている。つまり老人と幼児が少なく，働きざかりの家族構成である。

(5) 混合婚の状況

地区名	夫が一世の場合				夫が二世の場合	
	配偶者日系			配偶者非日系	配偶者日系	配偶者非日系
	計	渡航時既婚者	現地結婚者			
	人	人	人	人	人	人
アサイランジャ郡	1	—	1	1	—	—
インペラトレス〃	10	3	7	3	1	2
カロリーナ〃	—	—	—	—	1	—
計	11	3	8	4	2	2

ア　配偶者（妻）の日系と非日系の比率

区分	日系	非日系	比率
全体例	13人（68％）	6人（32％）	約2：1
現地結婚例	10人（63％）	6人（37％）	5：3（≒3：2）

ここでも，現地結婚例をみると５件の内約２件は非日系人と結婚している。

イ　一・二世別に見た混合婚の状況（但し，渡航時の既婚者をく）

一・二世の別(夫)＼妻	日　系	非日系
一世の場合	8人(67%)	4人(33%)
二世の場合	2人(50%)	2人(50%)
上記の比率	約7：5	約7：10

当地では二世の場合でも混血率は５０％とさして高くない。

(6)　国籍所有状況

ア　全　般

地区別	日本国籍者	伯国籍者		
		帰化	二世～	計
アサイランジャ郡	2人	一人	5人	5人
インペラトレス〃	23	—	52	52
カロリーナ〃	—	—	4	4
計	25人	一人	61人	61人
国籍別パーセント	29%	—%	71%	71%

イ　戸主の国籍所有状況

項目＼国籍区分	日本国籍者	伯国籍者		
		帰化	二世～	計
戸主	14人	0人	5人	5人
国籍別パーセント	74%	0%	26%	26%

(7) 家長の在伯年数

在伯年数 / 地区名	0～5年	6～10	11～15	16～20	21～30	31～40	40年以上
アサイランジャ郡	一人	一人	一人	一人	1人	一人	1人
インペラトレス〃	—	1	1	3	5	—	2
カロリーナ〃	—	—	—	—	—	—	—
計	一人	1人	1人	3人	6人	一人	3人
年数別パーセント	—%	7%	7%	21%	44%	—%	21%

（但し二世を除く）

(8) 家長の出身地

地区別	岩手	山形	福島	長野	東京	三重	広島	宮崎	長崎	鹿児島
アサイランジャ郡	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—
インペラトレス〃	—	1	—	2	1	1	—	2	3	1
カロリーナ〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	0	1	1	2	1	1	1	2	3	1

(9) 家長の学歴（新制）

学歴 / 地区名	小学	中学	高校	大学
アサイランジャ郡	1人	一人	1人	一人
インペラトレス〃	4	2	8	1
カロリーナ〃	—	—	—	1
計	5	2	9	2

(10) 家族の学歴

学歴 / 地区名	小学校在学中	小学	中学	高校	大学
アサイランジャ郡	ー人	2人	ー人	1人	ー人
インペラトレス〃	16	12	6	11	1
カロリーナ〃	ー	ー	ー	1	ー
計	16	14	6	14	1

(11) 子弟の就学状況

年令 / 学歴	6才	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22〜	計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
小学校中退	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
小学(在学・卒を含む)	1	4	3	2	1	1	1	1	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	2	16
中学(〃)	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	1	ー	1	1	ー	1	ー	1	ー	ー	5
高校(〃)	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	1	ー	ー	1	ー	1	5	8
大学(〃)	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	1	1	ー	ー	1	3
計	1	4	3	2	1	1	1	2	ー	1	2	ー	2	2	1	1	8	32
未就学者	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	0

(12) 家長の職業

職種	件数	備考
農業	12件	兼商2件，兼工1件，兼会社員1件
工業	1	兼農1件
商業	4	兼農2件
医師	1	
会社員	4	
サービス業	0	
無職	1	
その他	0	

(3) 農業経営作目

件　　数	胡　　椒	果樹雑作	蔬　　菜	養　　鶏	畜　　産
総 件 数	3件	1件	6件	2件	1件
専業件数	2	1	5	2	1

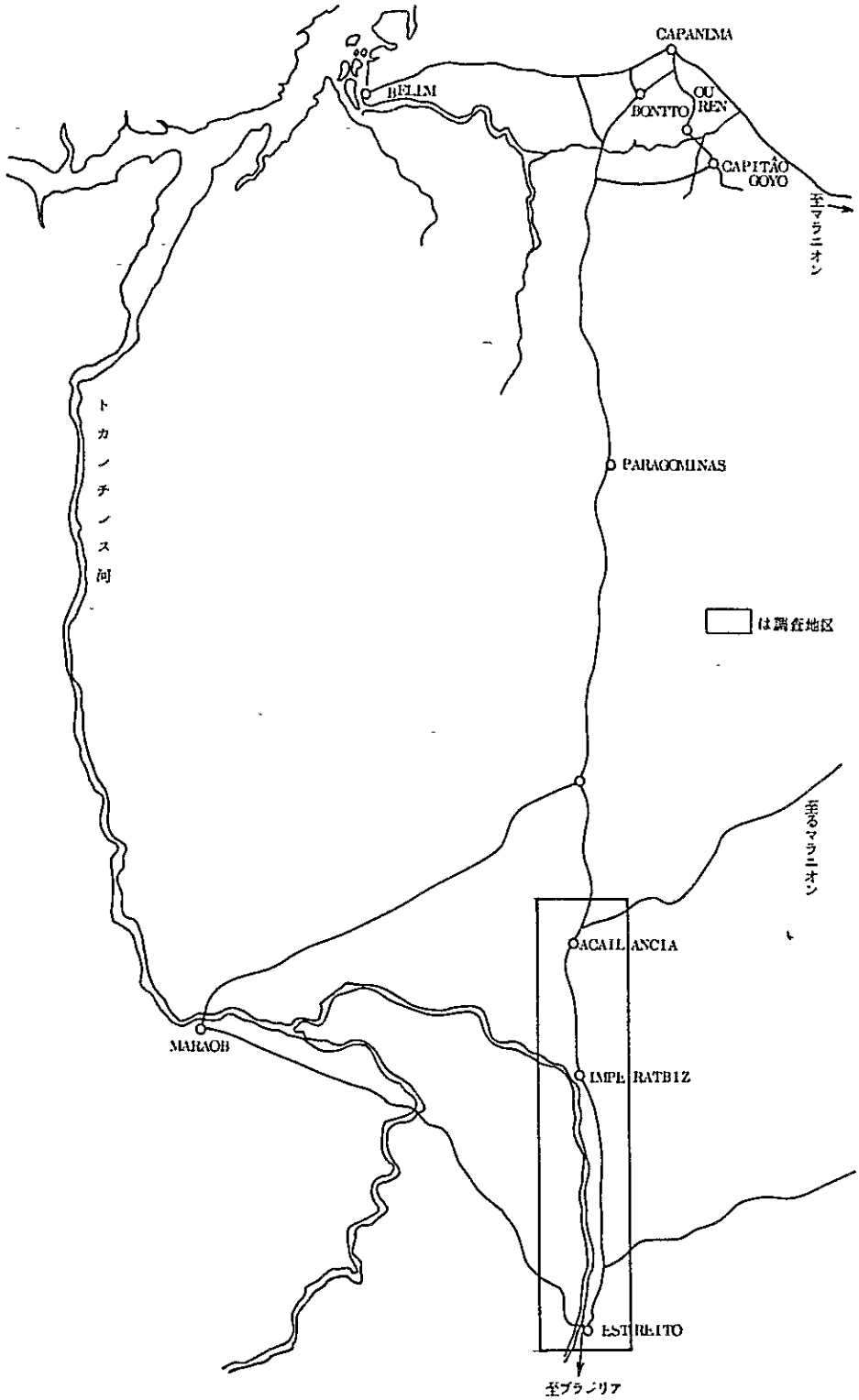
蔬菜専業が5件で一番多いのが特徴。

(4) 農業経営の規模

地　区　名	戸数	日系農家の総所得面積	所有状況						
			雇用農	借地農	1～10 ha	11～25	26～100	101～1,000	1,000 ha以上
	戸	ha	件	件	件	件	件	件	件
アサイランジャ郡	1	7	—	—	1	—	—	—	—
インペラトレス〃	11	396.5	—	3	3	2	2	1	—
カロリーナ〃	1	1,585	—	—	—	—	—	—	1
計	13	1,988.5	0	3	4	2	2	1	1

土地の所有状況をもって経営規模に替える。

当地の特徴は101ha以上を所有する2戸を除くと11戸で153.5ha，1戸平均僅か13.95haとなる。


CAPANEMA
BELEM
BONITO
OU REN
CAPITÃO POYO
至マラニオン
トカンチンス河
PARAGOMINAS
は調査地区
至マラニオン
ACAILANDIA
MARABA
IMPERATRIZ
ESTREITO
至ブラジリア

Ⅲ 支部所見

今回の散在移住者実態調査は日系在住者の分散状況やその家族状況等を実地に把握する事を主目的としたが，その過程において気付いた問題点を中心として支部所見としたい。

これ等散在移住者の殆んどは，経済的理由で広大なブラジル国の内奥地に分散し，それなりの成果はあげつつあるが，一方教育や衛生，娯楽などの面で払う犠牲は大きい。

何よりも大きな問題はこれが原因による文化面での日本人，日系人としての特質とか日本とブラジルを結ぶ媒体としての機能の低下ではなかろうか。

国際協調，国際協力が叫ばれている現在，「真の国際協力，協調の媒体は人である」と考える。

現に，ブラジル国において，「日本がブラジルにもたらした物心両面に亘る最大の利益は移住者である」との讃辞を政府要人から受けている事は周知の通りである。

しかるに，近年管内後続移住者は衰勢にあり，且つ既移住者も内陸奥地に散在して，国際協力面での機能，特質は失われつつある現実をこのまま放置するなら，結局，今日まで築きあげた日伯間の紐帯を弱める事になるので，今，日語教育の普及，日本文化の紹介，二世等の研修などによる人的交流等の強化により失われつつあるものの回復が急務である。

中にはロンドニア直轄州のアリケメス在住の日系人の如く，伯国関係者から注目される程の自治活動を自からの力で行い，日本文化の伝承に努力している所もあるが，所詮は現有の保持がやっとである訳で，当団の施策として此の種援護の強化・継続がいかに重要であるか痛感させられた今回の調査であった。

JICA